

石炭鑛業 互助會報

第三卷・第十一號

昭和三十一年十一月二十日發行

雜誌部

昭和三十一年十一月二十日發行
 昭和三十一年十一月十七日印刷
 昭和三十一年十一月二十日發行

目次

(卷頭言) 北、中、南支に獨立政權を樹立せよ	鳴島 義清	(五)
人造石油の話	古田 慶三	(四)
炭價と運賃	武内 禮藏	(九)
互助會皇軍慰問團歸來談	赤司 有三	(一五)
戦時下の石炭需給統制に就いて		
滿洲北支の皇軍慰問と炭田視察 (一)		
消費規正用炭配給に官民合同協議會設置		
鑛業法の改正に就いて		
昨年度の臺灣石炭鑛業		
開鑛炭鑛第一期擴張の全貌		
炭坑の爆發に就いて		
石炭船運賃		
戸畑驛炭積機使用汽船積石炭取扱手續改正		
常識大學講座 (一)		
鑛害賠償法案來議會に提出其他		
重役會並に理事會		
肥前支部諸行事		
肥前支部第一回總會概要		
本會新入會員紹介		
互助會皇軍慰問團歸朝		
石炭鑛業權設定		
互助會文藝誌		
互助會文藝		

十一月號

(福岡鑛山監督局管内)

白奴生

(八三)

(八〇)

(七七)

(七四)

(七一)

(七四)

(六八)

(六五)

(六二)

(五九)

(五〇)

(四七)

(四四)

(三九)

(三六)

(三三)

(二八)

(二五)

(二二)

(一七)

(一四)

(一一)

(八)

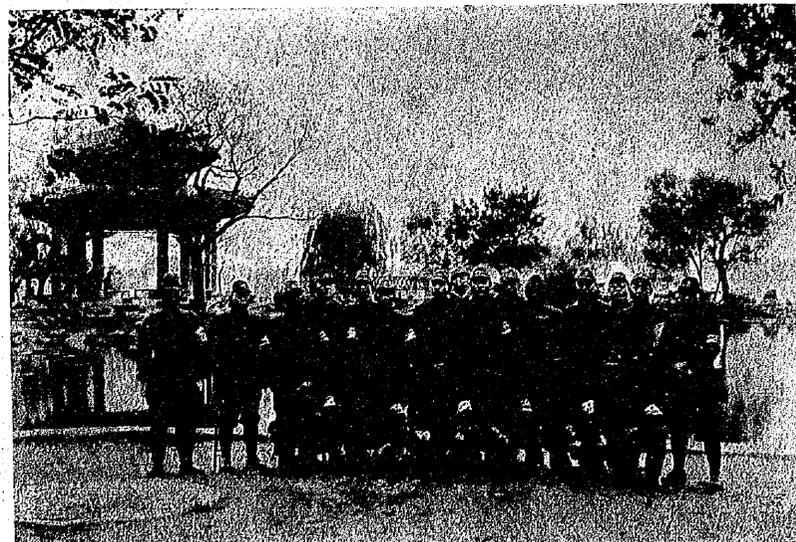
石炭鑛業互助會發行



福岡縣若松市旭小路四百拾壹番地
 法人筑豊石炭鑛業會



十月四日新新街市建レテマレ忠靈塔ニ感謝ノ禮ヲナシテ之ヲ記念ス



十月二十日於北郊外 有名ノ萬壽山頤和園ノ湖畔ニ至リテ 湖ノ堤ヲ麗ルナシテ閣樓ヲ築キタル支那ノ有テ人ノ極致ス 念ヲスルテテマレテ當ニ修繕ノ費此ガ清國海軍擴張ノ争戰日ルアリテ見ル所キナル人ノ旅ニ支テシト地ノ縁因フ云

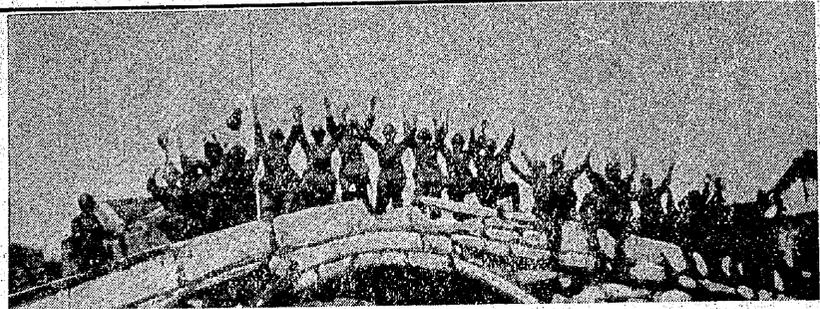
**炭坑關係者各位の
御安全を祈る**

福岡市薬院大通二丁目八一番地

福岡石炭商會

電話福岡西②

二三一九番
四三四二番



—▷ 言 頭 卷 ◁—

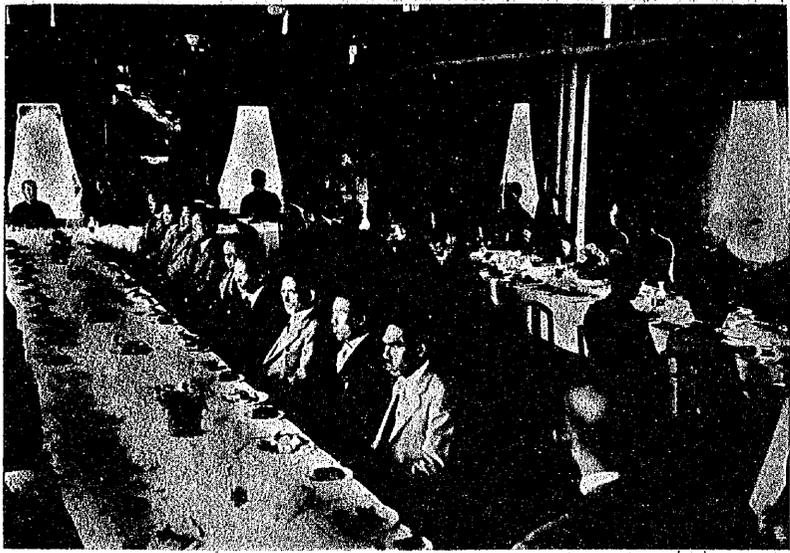
北、中、南支に獨立政府を樹立せよ

廣東、武漢の陥落をもつて支那事變は第四期に入つた。抗戰支那の重心たる國府の勢力は、兩地の喪失によつて支那本土の政治的、經濟的、文化的中樞を離れ、名實共に一地方政權に没落したのである。

茲に於て、帝國政府は十一月三日明治節の佳辰を卜して中外に闡明した聲明中「帝國が支那に望む所は、この東亞新秩序建設の任務を分擔せんことあり、帝國は支那國民が能く我眞意を理解し、以て帝國の協力に應へんことを期待す」と云ひ最後に「惟ふに東亞に於ける新秩序の建設は、我華國の精神に淵源し、これを完成するは、現代日本に課せられたる光榮ある責務なり、帝國は必要なる國內諸般の改革を斷行して愈々國家總力の擴充を圖り、萬難を排して斯業の達成に邁進せざるべからず」と結論してある。

又臨時、維新兩政府は北京に於ける聯合委員會成立當時の約束に基づき、去る二日第二回聯合委員會を南京に於て開催し、反共救國の大宣言を發表し、續いて廣東、武漢をも更生支那政權の誕生すべきことを見透し、臨時、維新兩政權は勿論、蒙疆政府廣東、武漢の新政權を加へて、眞に廣大なる更生支那の中央統一政府樹立の議を進め近くこれが促進の國民大會を開催すべきことを決議した。

併し乍ら、古來「馬上天下を取るは易く、馬上天下を治むるは難し」と謂ふ。換言すれば破壊は易く建設は難いのである。而かも現在の廣大なる支那を一政府で統治することは相當考慮を要する問題である。過去數十年間に於ける支那の政情は、恰かも我國戰國時代の如く群雄割據して、互に反擊闘争を繰返し、遯逸仙の徳、袁世凱の才、段祺瑞の武を以てしてもなほ統治出来なかつた過去の歴史を顧れば現在の支那人中に支那四百餘州四億の人民を統治すべき智仁勇兼備の人物果して有りや否や？我國に於ける織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、獨のヒットラー、伊のムッソリーニの如く偉大なる人物あれば免れ角、現在の支那は大偉人無く國は餘りに大き過ぎるのである。須らく現在の支那を少くとも黄河以北の北支、黄河、揚子江間の中支、揚子江以南の南支に三分して、各自獨立政府を樹立すべきである。軍部並に日支官民諸賢の三思再考を要す。(鳴瀆)



(九州日報寫眞部撮影) 長崎要塞司令部許可



(上) 長崎精養軒に於ける肥前支部主催の互助會皇軍慰問團歡迎會
(下) 十月廿七日上海丸より降りつゝある慰問團一行

人造石油の話

東京帝大名譽教授
工學博士

大島義清

戦争にはタンクや飛行機、軍艦が必要であると同様に、それにつきもの、燃料が大切であることは云ふまでもありません。それ故にガソリンは血の一滴にも例へられるほど尊重され、国内の消費節約は勿論のこと、何とかして我が國でガソリンを増産しようとする研究が重ねられてゐますが之れにつき東京帝國大學名譽教授の大島義清博士にお話を伺ひました。

日本でたゞ今石油の入用な量は、四百萬屯以上なのです。ところがその約一割の四十萬噸だけは日本の天然石油が供給してゐるわけですが、ガソリンとなると、必要な量の六分位しか國産品として出来ません。その他は大抵全部アメリカやポルネオなどの外國品を買つてゐる有様です。その點から考へても日本に人造石油をこしらへることは急務です。

今度私が長い間研究してやつと成功しましたこの人造石油は、何から作るかと申しますと、その主な材料は石炭です。あの眞黒な石炭から透明な液體が出来るのは不思議にお思ひになるでせう。

人造石油はこの頃流行の代用品ではなくて天然の石油と全く同じものなのです。天然石油は御存じのやうに秋田縣や新潟縣の東北地方の地面に穴を掘つて原油を汲み上げ、それを重油にしてガソリンを作るのです。それ故これはもとから油の状態であるものを汲み分けるのですが、これに反して人造石油の方は、炭山から石炭を掘出して、それに科學の力をかりて油に變化させるのです。

その科學の力といふのはどんなものか、次に簡単に説明しますと、それには三つの方法があります。第一にまず石炭に水素を働かせるのです。

何故かと申しますと石炭と石油とは大體に於て炭素と水素から成立つてゐると申してもよい性質のものであります。しかし石油の方は石炭より水素の量が多いといふ違ひがあるのです。云ひかへれば石炭に水素をましてやれば石炭が出来るわけです。其理窟から段々研究していくうちに人造石油が出来たのです。では其必要な水素は何から作るかといふと、石炭と水から取ります。何れにしても石炭が主な原料であることには違ひなく、水素を石炭に増してやるには非常な壓力を加へるのです。

第二の方法は石炭を一酸化炭素と水素の混ざつた瓦斯にしてしまひ、これを原料にして石油を合成するのです。やはり石炭は重要な材料になるわけで、この場合使はれる科學の力は、一酸化炭素と水素から石油の出来るやうな適當な媒介物を使ひます。

第三の方法としては、石炭を五六百度に熱しますと、このうちの約一割は重油になります。これですと石炭だけが必要になりますが、但し石炭瓦斯を作つたりエーテックスを作つたりすると似た方法でありますがこの方は溫度が低いといふ差があるわけです。以上の三つの方法をまとめて申しますと、何れも石炭と水が必要であることです。しかし石炭といつてもどんな石炭でもこの科學を應用し得るかといふと、石炭の質によつて違ひ應用出来るない場合もあるのです。

日本の石油の必要な量は前に述べた通りですが、とにかく石油の必要であることは申すまでもありません。ところで石炭は日本にそんなに澤山あるだらうかと思はれませうが日本では石炭の産額は莫大な量でありますから何らの心配もありません。

以上の三方法はすでにそれ／＼工業的に實行されてゐます。今後日本の石油は殆んど全部人造石油にならなければなりませんし、また近くさうなるべき機運に向つてゐるのです。

炭價と運賃

昭和石炭株式會社

社長 古田慶三

石炭は炭礦坑内の採掘箇所にて、坑夫の鶴嘴に依つて掘り出されると、それから後は工場のポイラーに投入せられるまで「動かす」ことの連続である。切羽に於て掘られた石炭は坑内の炭車に積まれ、人、馬の力に依りエンドレスに將又エレベーターに依り坑外に搬出せられ撰炭機に掛る。撰炭機も見方に依ては一つの運搬である。

次いで貨車に積まれ港に運ばれ、ローダーに掛るか又は舢に移されて船舶に積まれ市場に輸送せられる。揚地に於ても本船々側から工場の庭まで總て運搬である。實に「動かす」ことの連続である。而かも石炭は自然物採取で、加工する部分が少ない、且つ値段の割に重量が嵩む商品であるから「動かす」ことの費用は炭價の主要部分を占めて居る。

殊に本邦は細長い島國で、加ふるに石炭の産地は本州を中に挿んで、北と南の島に偏在してゐるから、山から國內各地に輸送することに於てすら海運に負ふ處が少くなく、船舶燃料並に外地送りを除く内地陸上消費中海送に依るものは概略六五%を占めてゐるのであつて、炭價構成内容としての船運賃は相當大きな部分を占めてゐる。

此點は本邦の特異性とも言ふべく、手許に諸外國の輸送経路に關する統計資料が乏しいから明確には言へないが、一國の内地消費石炭の海運に依る率は恐らく、世界中の産炭國に於て其の比を見ないであらうと思はれる。右の如く、内地陸上消費中の約六五%が海送に依つてゐることは、炭價、殊に本州各地に於ける市場炭價を問題とする場合に、重要な項目となるのである。

去る七月、家庭用炭及浴場用炭が、物品販賣價格取締規則に依る指定を受け中央、地方の物價委員會で審識せられ、又近くは主なる炭業者に對して商工省は炭價の引下命令を發する等、一般の炭價に對する關心が最近特に昂められたが、炭坑坑口に於ける炭價も炭價なら、納込まれた工場の庭に於ける炭價も炭價である。

而して此の兩様の炭價は等しく炭價と呼びなされ、概念的に同一に考へられてゐる傾があるが、其間には内容に於て大いに異なるものがあり、従つて別々の觀方で考察せられなければならぬと思ふのである。

坑口炭價は即ち炭礦業者の手取を意味し、是が論議の對象は炭價であり炭業者であるが、市場炭價となると、其の對照は純粹の炭價ではなくなつて来る。それは炭價と併んで船運賃であり陸上の大小輸送費である。

市場の炭價を觀る場合其の構成の内容而かも相當の部分占める輸送費を度外視する事は出来ぬ。

世上、炭價と運賃との因果關係につき二つの相異なる意見が對立してゐる。即ち「バンカーの昂騰が汽船運賃高を來す」と言ふ主張と「汽船運賃が高いから石炭が騰るのだ」と言ふ論である。此の兩論、鶏が先か、卵が先か一寸簡單には判じ兼ねるが、兎も角密接不可分の關係に立つてゐる譯である。今、試みに兩者相互影響の度合を比較するに、船運賃は市場炭價の決定的要素をなし、其の騰落は其儘直接端的に石炭の市場値段に響く事となる。即ち、今運賃一圓の下落は市場炭價一圓の下落となるが、之に對し、我々の手許にある材料に基き見當を付けた所に依れば、燃料炭一圓の値下りは、汽船運賃に對しては精々五錢位しか響かない様である。

之に依て見るときは、炭價の運賃に及ぼす影響の輕少にして、却て船運賃が炭價に及ぼす影響は重大なるを知るべく、従て適正なる市場炭價は適正なる船運賃を前提として割出されるものと見るのが實情に即した見方ではないかと考へられる。

此意味に於て市場炭價を引下げる爲めには、坑口炭價の引下を畫すると共に輸送費―船運賃の引下げを策することが必

要となる。

言ふ迄もなく、近來の運賃高には運賃原價の昂騰其他種々の原因もあらうが、近海船腹の拂底を主因とせるものであるから、運賃引下げの根本方策が船腹の不足補給に在りとして、之が調整の急務が喧しく叫ばれてゐる事は周知の通りである。而して船腹の補給充足は時局に鑑み、急速には實現困難の情勢にして、結局、既存船腹の運用を如何にして合理化し輸送能率の増進を圖るべきかと言ふことが當面應急の課題となつてゐる譯である。是れが爲めには可成炭種を統一し、又積揚兩地に於ける荷役能率を積極的に増して無用の滞船を解消せしむべしと言ふことが海運業者側から最近唱へられ、過般、船舶管理専門委員會の答申の中にも謳はれた様であるが、此の荷役能率の増進に付ては、石炭業者の側からも、石炭配給の圓滑を圖るため、疾くから其の必要を認め、昭和石炭會社を中心に之れが研究實現に努力し、着々實効を擧げてゐる。即ち現地に各社の受渡關係者を以て現務員會を設置し、積揚兩地の關係者相協力して荷役能率を増進せしむべく、例へば石炭の一艙内境界積の減少は荷役能率の向上に役立つこと尠くなしとし、汽船積一境界當り平均噸數の向上に銳意盡力し、同時に若松港には荷役作業の合理化を圖る第一歩として、荷主並に船主全部を以て組織する戸畑ホイスト（鐵道省管炭積機）申込打合會を設置し（昭和十一年三月）、規約を定め、會員互讓の精神を以て關係業者相協力し、戸畑ホイスト申込の統制、ホイスト炭積作業の圓滑、積取船の合理的配船等を圖り、積取汽船の船込み防止並に汽船滞船日數の短縮に顯著なる功績を収めて來た。之を數字に付て見れば、小口積多きもの、代表として、是れが改善に主方を注ぎたる若松―伊勢灣送り汽船積一境界當り平均噸數は

△第一表 若松―伊勢灣送り汽船積一境界當り平均噸數

一境界當平均噸數	積込噸數	同境界當
一五〇噸	六七〇噸	三五

十二年十二月最高記録

十二年下半年平均	一七五	三、六九九	三〇七
十二年上半年平均	一五三	六、五〇一	三三六
改善申合前平均	一三三	五、一〇九	三七三
(十一年八月十月)			

第一表に於けるが如く、改善の實績を示し、昭和十一年十一月ロット積高向上の申合せ成立以後に於ける最高記録たる十二年十二月の一八五噸は申合前三ヶ月平均實績一三七噸に比し四八噸（三五％）の向上を示してをり、尙一層の向上に努力しつゝある。

尙若松港に於ける汽船滞船日數は

△第二表 若松港汽船滞船時間

一隻平均滞船時間	滞船廿四時間當り積込噸數
十二年七月最高記録 時間 三六・九分	一五四噸
十二年下半年平均 時間 三〇・八	一、〇五三
十二年上半年平均 時間 三〇・六	一、三六七
打合開始前平均 時間 二六・三	七五
(十一年十二月)	
(十一年三月)	

第二表に於けるが如き改善向上の跡を示し、戸畑ホイスト申込打合會設立前に於ける四ヶ月平均に比し、其後の最高記録たる十二年七月分は平均滞船時間に於て六六時間二三分より二六時間三九分へと三九時間四四分（六〇％）の激減、平均積込噸數に於て七六五噸より一、五一四噸へと七四九噸（一〇〇％）の激増となり、驚異的な成績の向上を示してゐる是れも船腹の不足が齎らした自然の結果だと言つてしまへばそれまでであるが、斯くの如き滞船時間の短縮は荷役能率の

増進により、船腹不足補充の實益を齎したことは固よりなるも、滞船料の節減に依り、船主の受くる利益も蓋し相當の巨額に上るべく、其の範圍に於て少くとも運賃昂騰の制動機的作用を果してゐるものと考へられる譯である。

以上は、船腹不足に對處した一つの例であるが、尙此外にも手段は多々あると思ふ。今後、具體的問題に付一層の研究を重ね、可能なるものより逐次其の實現を圖り、炭價構成の重要素たる運賃の合理的な引下げに資したいと思ふ。此點に關し船主の協力を希望する次第である。

上來述べ來つた坑口炭價とも稱すべき地元値段に付ては、去る九月一日商工大臣より發せられたる炭價の引下命令に依り相當の値下げが實現したが、政府は之に適正なる輸送費を加へ、消費地に於ける石炭販賣價格を決定すべきことを要求してゐる。此度の値下げに付ては、増産途上の業者としては色々言分もあるが、一切は國策順應の立場から是れが遂行に協力善處してゐる次第である。萬一、地元炭價は引下げられたに拘らず運賃は逆に上ると言ふ様なことがあらば、結局市場炭價は下らないこととなるから、此點、船主側に於ても、船と石炭の密接なる相互依存關係に鑑み、此上共海運自治聯盟の統制範圍を擴大すると共に其の標準賃率を全面的に統一し、是れが引下勵行に依り運賃を正常なる線に安定せしめ、市場炭價が地元炭價の引下額以上に引下げられる様協力せられんことを切望して已まない次第である。是亦國策に順應する所以であると思ふ。

(完)



互助會皇軍慰問團歸來談

互助會石炭株式會社專務取締役
互助會皇軍慰問團々々長 武 内 禮 藏

互助會皇軍慰問團一行武内團長始め二十名は十月一日關釜連絡線德壽丸で出發二十七日午後一時長崎入港の上海丸で一同元氣で歸朝したが武内團長の歸來談は左の如くである

去る一日下關出發、朝鮮經由入滿新京を中心に軍及産業各部門を歴訪、新興滿洲の政治經濟各方面を大觀し皇軍慰問としては牡丹江を中心に第一線部隊を歴訪した、撫順炭礦及滿洲炭礦の現状を見聞して北支に入り北京を中心に六大鐵道幹線を逐次旅行し、蒙疆、北支中支各第一線部隊を親しく慰問し各所に於て特に郷土部隊と面接し得た事は欣幸の極みであつた。軍特務部の好意に依り各地慰問及視察に多大の便宜を得且つ公言は憚るが對支諸政策及對支邦人進出に關する軍部方針等に關して相當突き進んだ意見を聴取することを得た、炭礦視察としては豫定通り大同炭礦及井陘炭礦を坑内外に涉り詳細に調査する事が出來た、今回の旅行を通じて所感の主要を擧ぐれば凡そ左記の通りである。

(一) 皇軍第一線將兵の勞苦は何と云ふても言語を超えて居る、國力の發展は結局軍擴にあり、而して軍擴の責任は一に銃後擴充に在ることを痛感した

(二) 日滿關係と對支關係とは往々同格に論ぜらるゝ様なるも事態は根本に於て相違あることを認識した

(三) 對支政策に付ては巷間種々の是非議論あるも何れも一部分にして妥當でない、一貫した論理が成立たないこと自体が支那の實態を裏書するものである、要は治安の平定と並行して治政、外交宣撫の機關を確立して陣容整備に努め飽く迄押の一手を進むことが急務であると信ずる。

(四) 大同炭礦は蒙疆自治聯盟の依頼によつて滿鐵(撫順)が委任管理をなして居る、井陘炭礦は軍の指令によつて興中公司在委任管理をなし其人材は擧て貝島炭礦から派遣されて居る、各所とも従業員は第一線將兵同様東亞和平の國策に沿ふて身命を賭して戦つて居る。調査の詳細に付ては別の機會に於て發表したいと思ふ

(五) 世間往々事業の獨占之は支配權に付て財閥的色彩を論ずるものあり又經營方法等に就ても兎角の異論をなすものありも對支大政策は斯様な狹量を容るゝ餘地がない、其無限の大資寶を如何に開拓せんかは世界的の問題であつて實に大和民族に與へられた天佑的大使命であり國を擧げての協力に俟たねばならないものであると信する、金融資材調整人材供給凡て國民總動員に依らねばならぬものであることを深く認識せなければならぬのである

(六) 而して石炭資源の開拓と之れが内地輸出に付て一言せんに、世間では是等資源が手早く開拓されて内地に供給されるものゝ如くに考へられて居る向も少くないが事態は左様に簡單には參らない、少くとも茲五、七年は斯様なことを考ふることば無駄だ、今は徒らに空理空論を弄すべき時期ではない、支那大衆の覺醒と治安の平定、新興政權に對する外交政策が先決問題であり、弊制の統一にせよ、鐵道の統制にせよ、港灣開設にせよ何れも一代を要する大問題であつて焦急に片付けようとしてはならない。

(七) 北支、中支とも重要都市に於ては石炭價格の統制を嚴行しつゝあるが輸送難によつて供給が極めて不圓滑である、北支鐵道全線の總輸送力の七割が饋物であり、其九、九割迄石炭の輸送である、何分にも戦争を續行しつゝ産業を開發せんとするものであるから其輸送力に制限のあることは言ふを俟たない、此冬季に向つて内地から送炭し得る地域例へば青島、上海等へは内地需要に差支へない程度に於て据物炭を逆に輸出して先方の火急を救濟せねばならぬのではないかと思ふ。

開平其他の原料炭は輸送の可能丈け内地に輸入する代りに家庭用炭及工場用炭の一部は内地から補給する必要がある

と思ふ、上海の如きは現在の需要は事變前需要の六、七割程度迄回復して來たが英國カーチス炭、印度炭が輸入されて居る現状である、輸入税其他の諸掛が二弗五〇程度迄引下げられたのであるから内地炭の輸出は優に採算可能である、此問題に付ては何れ近く商工省當局の意見を徴した上で具体的に考慮して見たいと考へて居る。

戦時下の石炭需給統制に就いて

才津原 積

一、緒 言

石炭は近代社會の太陽であり近代文化の大動脈である。動力機械の發明と石炭の活用とから全世界の産業界の大革命となり近代文化が誕生したのである。

近代人は一日として石炭から離れることは出來ない、石炭は人類生活の凡ゆる領域に亘つて吾々に深く喰入つて居る。即ち石炭は産業の原動力たるのみならず醫藥、香料、染料、肥料、防腐防虫、化學藥品、保温瓦斯燃料、道路舗裝等々石炭は千變萬化の姿態を以て、近代人の日常生活面を豊かに有利に内助し養護して居る、石炭は實に吾人の生命である。

石炭は又平時及戦時に於ける工業界の帝王であり覇者である。人類と石炭——其處に吾々は宿命的なものを感じさせられる、吾等人類は最後の一塊に至る迄之を握り盡さずには居ないであらう

斯の如く石炭は戦時は固より平時に於ても國防産業上重大なる使命を有するものなれば、我が政府當局は昭和九年より石炭に對して重要産業統制法を發動適用することゝなり從來無統制不安定の儘に發達し來つた石炭礦業は遂に國法庇護監

督の下に統制されることとなり、昭和十一年春を契機として勃然として興つた製鐵其他の重工業は今次の支那事變勃發によつて本格的に戰時的緊張を呈するに至り之が原動力たる石炭の生産並に配給の統制は愈々強化されるに至つたのである

二、政府の統制策

戰時体制下に於ける石炭界の劃期的な統制策としては

第一、商省内に石炭生産統制協議會、石炭配給統制協議會を設置し、官民より委員を選任して石炭の需給調整を確立せんとしたこと

第二、九月一日輸出入品臨時措置法に基き昭和石炭會社に對し標準値より約壹割見當即ち塊壹圓五拾錢、中小塊壹圓、粉炭九拾錢引下の處分命令を發し、互助會石炭會社に對しては双方折衝の結果約三分見當即ち塊七拾錢、中小塊六拾錢、粉炭四拾錢を引下ることに決定したこと

第一の統制協議會は昨年來の石炭飢饉の不安を解消し、併せて軍需用炭確保を目標として炭礦業者に對し増産に必要な諸方策を發令強制し得る権限を與へた點に意義があり、第二は政府の物價引下策に基き石炭を除く殆んど總ての重要物資は公定價格を設定したが石炭は生産コストに相當差異があるので各従價によつて引下げることとなつたのである。

三、聯合會と互助會

現在我國に於ける石炭礦業界は三井、三菱、住友、古河等の大財閥を樞軸とする筑豊礦業會、肥筑礦業會、岩屋炭礦、三池礦業所、松島炭坑、北海道礦業會、常磐礦業會、宇部礦業組合を加盟會員とする石炭礦業聯合會と全九州、山口縣下に百二十二の中小炭礦を傘下に包擁する石炭礦業互助會の二大統制團體によつて生産統制を行ひ、配給方面は前者は昭和

石炭會社、後者は互助會石炭會社によつて販賣統制を行つて居るが福岡礦山監督局管内だけでも八十餘坑のアウトサイド炭坑があり、之に常磐、北海道等を加ふれば實に夥しき數にして是等の非加盟炭坑が動もすれば統制を紊す虞あるを以て之を一日も速かに聯合會又は互助會の何れかに加盟せしめ以て統制の完璧を期すべきである。

四、共販機關設置の急務

次に販賣統制に就て一言せんに、政府當局に於ては生産及配給に關する官民合同の協議會は形式に囚はれて其奏功薄きを慮り未だ一回も委員會を開かず關係當局内部に於てのみ數次打合せを行ひ原料炭、軍需炭の圓滑なる配給と適正炭價の決定について調査を進めつゝある模様なるも所謂適正炭價の公定については生産費其他各種採炭條件に相當差等があり、獨り中小炭坑のみならず大手筋炭坑でも可成條件を異にしてゐる情態であり、一方炭坑より消費者に至る段階に千差萬別あつて現在の儘では一定規格を以て全國一率に石炭の公定相場を作ることとは不可能である

現に商工省の公認せる炭價に於て昭和系と互助會系の石炭は同一規格で屯當り三圓内外の値差がある、之は大炭坑と中小炭坑との生産コスト其他各種の採炭條件の差異を認めた結果である。故に炭價の適正と需給の完全なる調節を圖り公定相場を作るには結局半官半民の共同販賣機關を設けるより外に途はないと思ふ。共同販賣實現の嚆には各炭坑の生産コストを標準に買入れて公定價格で販賣するので不合理なる値差も除かれ加之生産、配給、貨車輸送、積込設備、共同貯炭場雇船其他需要者に着荷迄の總ての點に於て無駄を省き經濟的に合理化し、之によつて國家國民業者の得る所は實に大なるものがある、故に増産を必要とする現狀並に複雑なる石炭の内容に鑑み共同販賣機關を設置することは戰時体制下に於ける現下の最大急務である。

五、日滿支一体の需給計畫

尙戰時財政經濟政策は武漢三鎮の陥落により愈々長期建設の段階に入り、今回北支開發會社の成立と相俟つて急速に具體化する段取りとなり石炭に於ても速かに日滿支十帯の需給計畫を樹立すべきである。

我國石炭界の現状は昭和十三年度の需要供給は最初五千百萬屯であつたが之が事變突發其他の關係で全く情勢が變化し増産に次々に増産を以てする現状である、而して五千百萬屯の内譯は聯合會三千四百萬屯、朝鮮、樺太、撫順、北支等よりの移輸炭五百五十萬屯、此の兩者を減じて残りの千五百五十萬屯が互助會並にアウトサイダーの割當となつて居るが最近の調査によれば明年三月末迄には約七十萬屯の自然減は已むを得ざる情勢である。即ち製鋼配給の不圓滑、坑木の不足、〇〇による勞働力の不足等の爲聯合會約二百萬屯、之に加へて移輸入炭の内地輸送が貨物輻輳其他の爲少くとも百二十萬屯減で、合計内地に於ける供給減は約三百二十萬屯となり、需要の方は政府の統制強化或は平和産業部門の統制による消費節約、官廳は固より一般國民の消費節約等により需要の減退は約二百五十萬屯にして結局七十萬屯内外の供給不足となる結論に到達するのである。

而して滿洲に於ける撫順、阜新、密山等の大炭坑は地元滿洲國の諸工業の勃興により期待薄く、北支、中支に於ける大同、井陘、中興、開灤等は鐵道、積込設備、港灣改修等輸送機關不完全の爲數年間内地供給は多くを期待出來ざる情勢なれば速かに現地の軍當局と折衝して内地の石炭飢饉を緩和すべきである。

六、結 論

之を要するに戰時下の石炭需給調整は内地に於ける九州、常磐、北海道等のアウトサイダー炭坑を聯合會又は互助會の二大統制團體の何れかに加盟せしめて統制の完璧を期し共同販賣機關を設立して經濟的に合理化すると共に朝鮮、樺太、臺灣、滿洲、北支の新坑を開發し、日滿支一体の石炭需給計畫を樹立することが刻下の最大急務である。

滿洲北支の皇軍慰問と炭田視察 (一)

互助會皇軍慰問團報告書

赤 司 有 三

ま へ か き

昨年七月七日北京効外蘆溝橋畔に於ける支那第二十九軍の我軍に對する不法射撃に端を發した北支事變は頑迷なる中國政府が非道の共產黨に操られながら次第に發展し遂に未曾有の大事變となり、全支を戰火の渦中に巻き込んでしまつた。

我が忠勇義烈の皇軍が絶大なる努力と神速なる活躍によつて、至る處に赫々の戰火を收め、東亞の情勢に一大轉機を畫するに到つた。有史以來斯くも大規模の聖戰なく、又其の世界的意義の今日程重大なる事亦曾つて無き時局に逢着した。

過去一ヶ年餘に亘る聖戰に於て、宏大なる御稜威のものと我が忠勇なる將兵各位の勇戰奮闘に依り、支那大陸に印されたる偉大なる足跡は、實に世界人を驚嘆せしめ、皇國の武威る彌々中外に宣揚されたのであり、此の驚異的戰果を偲びて第一線將士の奮闘に深く感謝感激の意を表し、又此間或は傷き或は病魔に倒れて呻吟さるゝ將士に思ひを到し、或は又異郷に護國の花と散られたる幾多殉國の英靈に心からなる感謝と、痛惜哀悼の意を捧ぐるは吾等統後人の當然なる義務である、されば今回我が互助會は滿洲北支に皇軍慰問使を派遣して其の微意を表するの行を企圖したり、洵に時宜に適したる壯圖にして、更に事變勃發以來卒先國策に順應して炭業報國に邁進しつゝある本會としては、此の大事變の前途に對し一段の決意を新たにすべき秋にして、彼れ是れ意義深き行事である。

に附記すべき事は、本會所屬炭坑三萬餘人の従業者中〇〇〇〇餘人の應召者を出し、これ等出征者に對する待遇方法



小倉山劇場於ルケ白衣勇士慰問會記念

は必ずしも同一でないが、概ね各坑に於て相應の優遇をなし、殊に其の生活等に關する援助も決して放任されてはゐない筈である。

會としては客年十一月一日家族に對して慰問金を贈り家族慰問の微意を表し、更に本年一月二十一日には小倉陸軍病院に治療中の傷夷軍人將兵各位一千餘名を小倉市勝山劇場に招待して慰安會を催し、天勝一座の演藝を提供する等慰安に努めたる爲小倉陸軍病院長より感謝狀を授與せられたが、其後軍人家族後援會、新聞社主催の慰問品募集に應ずる等慰問には特に心を到し、更に今回の慰問團派遣となつたのである。

又本會は滿洲事變直後當時の内地炭業界の狀勢に鑑みる處あり滿洲炭田開發の實情を知る必要を感じ、同地方の炭田視察團派遣の議起り、既に役員會の決議を経たる事も有つたが、其後内地炭界の狀勢は文字通り多事多端にして、幹部は勿論、各坑主共に餘暇なく、遂に支那事變となり、愈々本會の使命重大を帯びるに到つたのである。

即ち増産擴充の國策線に沿ふて、異常の緊張味を加へ政府當局との交渉、又益々緊密を要し、而も繁雜となり、時に其の略

間に答へ或は勞働力の充足を訴へ、欠乏する物資の配給を迫つて、請願陳情に殆んど毎日無く、更に物價調整に基く適正なる炭價の公定に對する對策等、眞に此の一年間に於る幹部諸氏の努力奮闘は全く席温るの時無き状態であつた。

然も堂々の陣容を張り常に大局を國家的見地に置き、強く眞剣に、對策に努力善處せられたる結果、今や中小炭坑特異の實狀を天下に認識せらるゝに到り、實に目覺しき活動の行跡を遣し來つた。

茲に目前の緊要問題も一段落を遂げて、皇軍慰問團派遣の議起るや、商工省當局を初め關係各省より慰問並に視察上大の御配慮を煩す事を得たるを以て茲に燃料國策遂行上の一助ともなり、且つは多年の懸案實現の好機となり、關係當局の懇切なる指圖と現地視察上の聯絡了し、準備全く成つて團員一行二十名、十月一日を卜して出發、朝鮮經由一路渡滿、先づ滿洲國警備第一線の將士の慰問をなし更に北支に向ふべく其の途に於たのである。

出發の日

漢口陥落近しとのニュースに胸躍らす昭和十三年十月一日、黄金の波打つ稔の秋を他事に、光榮に輝く互助會慰問團の芽出たき出發の日である。

此の日、秋空一碧、快晴の天候に恵まれ、幸先好しと勇躍した一行二十名、晴れの壯圖の第一步を力強く踏出す。

國防色地、ダブル型詰襟卷ゲートル、戰鬥帽と云ふ揃ひの出で立ち、左腕に巻いた、日の丸の徽章もクツキリと鮮かである。

出征將士も斯くやと思ふ颯爽たる姿にて午前九時下ノ關山陽ホテルに勢揃へ、見送りとして、野上會長始め相談役重役幹部各坑代表近親者知己等二百餘人の多きに上つたのは一行の最も感謝に堪へぬところである。

一同、別室廣間に設けの席に着くや、野上會長立つて、慰問團の使命と其意義を述べ、併せて懇切なる訓示と團體行動



下關山陽ホテル前記念撮影

上の注意あり、武内團長一行を代表し深甚の謝意を表しこの重大なる使命を果さむ事を誓ふて答辭とし、藤井重役の發聲にて萬歳三唱、ついで乾盃して壯圖を祝福せらる。終つて、ホテル玄關前にて記念撮影をなす。

是れより、多數見送りの人と暫しの別れに名残を惜しむ中時刻は移つて十時、關釜連絡船徳壽丸に、乗船すれば、忽ち起る歡呼の聲、旗の波、十時半船は靜かに岸壁を離る、此の瞬間萬歳と左様ならの交響、眞に感激の一場面であつた。

左様ならの聲も次第に遠く、打ち振る旗の影も消ゆるまで送る人送らるゝ一行の名残はつきざりき、關門、若、戸の山々にも暫しの別れを惜しみつゝ、船は一路釜山に向ふ、

玄海洋上波靜かに前途平安の吉兆に見ゆ、唯團員一同の意氣のみ彌が上にも昂る

(教育總監西尾中將閣下も此の船に乗船せらる)

午後二時、團員一同食堂に集合初めての顔合せである武内團長は團員の負へる重き責務を述べ團員の健康を祈つて挨拶をなし夫々團員の紹介を行つた。ついで三崎重役寄贈の下關

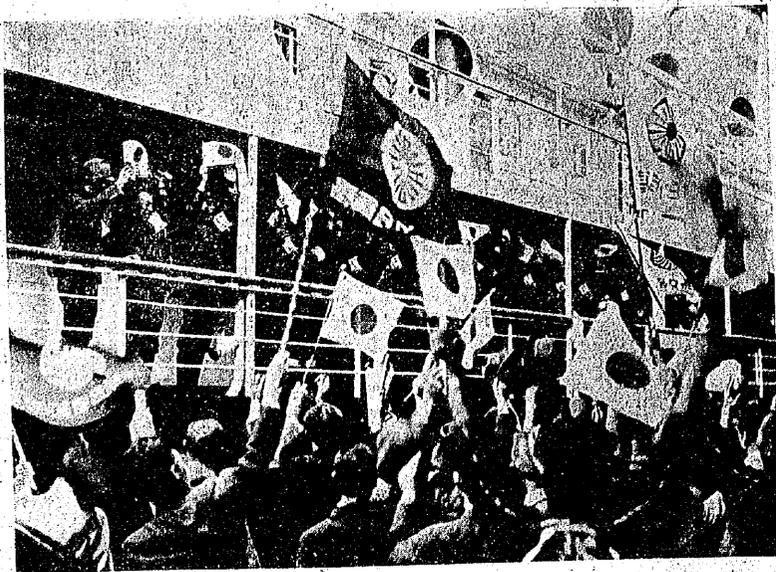
岡崎屋の辨當に舌鼓を打つ

船は果て無き海上を全速力で航行して、午後六時豫定通り釜山港に安着、直に新京行特急「光」に乗り込み六時四十五分發車、沿道の半島風景も折柄降り出した雨と夕闇に閉ざされて見る事が出来ず、京城も夢の中に通過した。

(十月一日記)

朝鮮の山野

「平壤」と呼ぶ聲に目を覺す、午前七時。旅に出れば何より氣になるのは天候である。



下關埠頭徳壽丸船上の一行

盛大なる見送

義州着、

今日も一片の雲もなき快晴、車窓

より流れ込む朝の大氣を吸へば身心共に清々しい氣持となる。

平壤を過ぐれば暫くは廣い平野を「光」はヒタ走りに走る。處々の鮮人部落に松茸の立つたような住宅が異様である、耕作地の眞中を掘り返した砂金採取の船が、浚漕船の様な格好で幾艘も動いてゐる。

團員山形大佐は曾つて平壤憲兵隊に在勤せられ居た事があり、此の邊の地理風俗に精通されてゐるので、一同、同氏の説明に耳を傾ける。

最近砂金採取船が著しく増えてゐるとの事であるが、これも國策線に沿ふての産金報國風景であらう。

正午鮮滿國境線たる鴨綠江沿岸新

「明日は又新義州に着きかねる」の歌も思ひ出される。國境警備の歌、鴨綠江節に聞く鴨綠江は聊か期待が大き過ぎた勢か遠賀川を少し大きくした感じで流す夜も往き來の船もまばらに見えて、是が有名な鴨綠江かと失意するものもあつた新義州驛にて四十分停車、此の間税關の嚴重な検査がある。

愈々滿洲國に入る

鴨綠江を渡れば愈々滿洲國、風俗も忽ち一變して、沿道に見る白服は淺黄色と變るのも面白い風景である。四平街、沙河、本溪湖等日露戰役の戰跡地に激戰の當時を偲びつゝ、赤い夕陽に照らされて奉天着、夕靄罩むる奉天城を微かに眺めて、汽車は走る。

午後九時三十五分（滿洲時間二十一時三十五分）豫定通り新京驛に到着した、一同元氣にホームに降立ち、大都ホテル及新京ホテルより出迎への自動車に分乗、第一班は大都ホテル、第二班は新京ホテルに落着いて、やつと疲れた腰を伸ばすを得た。

思へば下關を出て、正に三十五時間をブツ通しの乗物に勞れた骨を休める。

滿洲國の第一夜に夢も圓かなれと祈つて、十二時寢に就く、

（十月二日記）

滿洲國産業部訪問

午前九時一同元氣に満ちて大都ホテルに集合す、

武内、山本、西本、木曾の四氏は九時半滿洲國政府産業部に岸次長を訪問した。産業部は滿洲國全産業部門の行政を管掌する最高官廳で、日本の商工、農林省に該當する、新興の途上産業開發五ヶ年計畫等の大事業を司宰するし最も重要な

使命を有つ機關である。

ちようと岸次長は外出中で、待つ事三十分にして同氏と會見、武内團長は今回派遣せられたる互助會慰問團の使命と併せて、内地炭業界の狀勢に鑑み滿洲國炭田の實狀を詳らかに見聞して微力ながらも、斯界の爲に盡したいと眞剣なる心構へを披瀝し、視察に就ての御指圖を乞ふ旨を述べ、

岸次長はこれに對して、諸君の視察に關しては、特に田島次官其他の關係官廳よりの手配もあり、當方としても、出來得る限りの視察上のお世話をする旨答へられ、辻礦務課長を紹介せられた。一同礦務課長室に案内され、恰度此處に來合せの滿洲炭坑株式會社（以下單に滿炭と記す）長井常務理事に會見の機會を得て、滿洲炭業界の概要を聴取した。

武内團長より内地炭界の實狀を縷々述べて、今後滿炭の内地輸出に對する見通しを訊し、尙密山炭田の視察に就ては、特に商工省より指圖あつたる旨を附け加へた。是れに對し長井理事は、互助會の壯圖に敬意を表され、

内地の炭業界では滿洲炭が内地に進出して内地の市場を攪亂する如きを杞憂さるゝ向あるやうに聞いてゐるが、私等の見解では左様な事は、ほんとの杞憂に過ぎぬと思ふ、滿洲國産業計畫が樹てられ殊に重工業株式會社の創立を見たる今日滿洲産出の石炭は、國內に消化さるべきもので、内地に利用さるゝと言ふは製鐵業に必須の原料炭其他内地に不足してゐる特殊炭を補給する程度に出でぬと思ふ、此の意味に於て滿炭經營の密山炭坑の如きは現に大なる犠牲を拂つて出炭してゐる次第である。滿洲國政府は滿炭に對して頻りに増産を迫つてゐるが、人的には勿論物的にも資材不足で困つてゐるから、出來るなら内地から機械器具其他の資材を送つて貰ひたい。今の状態では、二千万噸出せとか、三千万噸を目標に増産擴充を計れと言はれても、實現は不可能と思ふ、尙密山炭坑を視察せらるゝ事は誠に結構であるが、滿炭現在の機構として同地方の炭田を他に一部分でも移譲し又は委託經營でもやらせると言ふ事は絶対に出來ぬ、假令他人が經營しても採算が立たぬから、到底望み難いと思ふ云々と述べ、

密山炭田は全然他より介入する餘地無きを言明せられた。

密山炭田の視察に付ては大きな期待を持つてゐた矢先きに長井常務の言により商工省より懲罰せられたる密山炭田の視察の意義が事志に反したるやの感を抱いた。

午後零時半、再會を約して辭去、大郡ホテルに引揚げ、一時半團員集合の席上午前中會見の顛末を報告した後一同慰問のため

關東軍司令部を訪問す

新澤副官に面會團長より親しく慰問の辭を述べ、慰問品を贈り、更に海軍部に至り中岡參謀に會見、同様慰問し、同參謀より海軍部の國境警備概要を聴く、

次に滿炭本社を訪ひ、河本理事長及長井理事に面會、滿炭會社の狀況に付き聴取、會議室に於て滿炭所屬各炭坑の實況を撮影した映畫を觀て其の石炭の豊富なると規模の大なるを觀て得る處あり。

五時半、一旦ホテルに歸り、午後六時より城倉閣下の招宴に出席、今日の日程を終る、

滿洲炭礦株式會社の概要

一、會社の創立

昭和九年二月發布の滿洲炭坑株式會社法に據り同年五月七日創立を見たり

二、本會社の使命

石炭資源の經濟的開發を圖り生産の無要なる競争を避け炭價を可成低廉ならしむる外炭質に隨ひ最も適切なる用途を選び、以て炭業の賢實なる發達を企圖するの目的を以て特殊會社として當會社の設立を見たるものにして、

會社は此の使命に従ひ左記の業務を營むを目的とす、

炭礦事情

1. 石炭の採掘

一、復州炭坑

2. 石炭の販賣

1. 位置

3. 炭礦に對する投資

關東洲ニ近キ復縣五湖嘴ニ在リ復州灣ニ臨ミ炭坑中港灣ニ

4. 産業部大臣の認可を受けたる前記各號に附帶する事業

面スル唯一ノ炭坑ニシテ瓦房店ヨリ西博七十軒ノ 点ニ在リ

一、資本金 國幣八千万圓

2. 沿革

滿洲國政府 (現物八百万圓)

元張學良系ノ東北礦務局ノ經營ナリシガ滿洲國成立後逆産處

滿鐵 (現物五百万圓、現金三百万圓)

分ニヨリ政府ノ所有トナリ滿鐵ニ經營ヲ委任セラレタリ。當

の出資により資本金千六百一十萬圓を以て創立せられたる

社設立ノ際政府ヨリ現物出資アリタルモノ

が増産計畫遂行の爲昨年二月八千万圓 (現在拂込四千八

3. 埋藏量

百万圓) に増資せり

六百六十萬噸

一、組織及び従業員

4. 炭層

理事長、副理事長以下役員十名の下に總務部、經理部、

現在稼行ニ堪ユルモノニ層アリテ厚サ不均一ニシテ大体一米

技術局を置き各炭坑の運営統制に當る、

一五米。傾斜モ不同ナルガ十度一三十度

従業員數、社員二、九七四人

5. 炭層及び用途

社員外従業員 四六、七五三人

無煙炭ニシテ炭質脆弱粉炭多シ、煉炭原料、窯業コークス配

計 四九、七三七人

6. 採炭方法

合炭ニ用ヒ、發熱量塊炭七、五〇〇カロリー

坑内、充填材料無キヲ以テ粘土ブロックノ手詰充填ニ依ル殘
栓式採炭法ヲ採用ス

7. 通風及び保安

通氣ノ状態ハ良好ニシテ十馬力一三十馬力ノ「シロツユ」ヲ
以テ坑内通氣ヲ計レリ

8. 主なる設備

蒸氣捲揚機一四〇馬力一台、一〇〇馬力二台、電氣〇揚機二
〇〇馬力二台、タービン唧筒六〇馬力一台ヲ有ス

9. 出炭 販路

本炭礦長目下十五萬噸程度ノ出炭ヲナシ居ルモ、主トシテ煉
炭原料コークス配合炭トシテ使用セラル、外、一般焚燒用ニ
供セラレ大部分ハ日本内地向ケ輸出サル

二、北票 炭 礦

1. 位 置

錦州省錦古線金嶺寺ヨリ分岐スル北票支線ノ終點ニブリ、錦
縣ニ一二二籽、奉天ニ三四八籽、壺盧島ニ一七六籽、河北ニ
二六七籽アリ

2. 沿 革

採炭ハ長壁式ノ行拂ニシテ切又採炭ハ三交代採炭ニシテ充填
ハ「バーシヤルバツキング」ナリ、掘進硬チ用フ電氣トリル鑿孔
ニセル電氣發破セリ

7. 通 氣

通氣状態ハ良好トハ言ヘナイガ舊來ノ七五馬力ノ代リニ三五
〇馬力ノ「ターボファン」ヲ据付ケテヨリ概シテ良好トナレ
リ

8. 照 明

坑内各主要運搬坑道ノ安全地域ニハ電灯ヲ使用シ工人ハ揮發
油安全灯又ハ手提及帽上電氣安全灯ヲ使用シタリシモ二月ヨ
リ瓦斯檢定ニ使用ノ外ハ揮發油安全灯ヲ廢シ本田式H.L.アル
カル帽上電氣安全灯ヲ使用中ナリ

9. 主ナル設備

一、五〇〇KWノ發電設備及ベルト式手選バンド三臺及毎時
五〇噸ノ處理能力ヲ有スル「バウム」式水洗機二臺、三〇噸
ノ「バウム」式再洗機一臺ヲ有ス

10. 出炭 及 販路

現在三十五萬噸程度ノ出炭アリ、主トシテ鐵道用炭、沿線地
賣トシテ販賣サレ一部輸出炭トシテ日本内地ニ仕向ケラル

清朝時代ノ發見ニ係リ最初京奉鐵道カ開鑿炭礦ノ補助礦トシ
テ着目シ英人技師等モ之ニ關係セシユトアリ。昭和八年十二
月北票炭礦股份有限公司ノ設立ヲ許可セリ、後滿炭會社設立
ニ際シ政府ハ其ノ持株ヲ出資シ同十二年四月滿炭ノ直營トナ
レリ。

3. 埋 藏 量

一億五千五百萬噸

4. 炭 層

中央採炭所採行ニ堪ルモノ八層アリテ其ノ厚サハ所ニヨリ
一定セサルモ概シテ一米―二米、傾斜四〇度―七〇度アリ
三寶採炭所、壽吉採炭所ハ目下斜坑掘進中ニシテ炭層賦存狀
況列明セス

5. 炭 質

發熱量七、一〇〇カロリーヲ有シ燐及硫黃分少ナキ良質ノ煙
青炭ニシテ膨脹粘結性ヲ有ス
工業用及コークス原料ニ用フ

6. 採 炭

堅坑ニシテ深サ六〇〇尺ニシテ現在三〇〇馬力電氣捲、二號
堅坑ハ深サ九〇〇尺ニシテ五〇〇馬力ノ蒸氣捲機ヲ設置ス

三、阜新 礦 業 所

1. 位 置

阜新炭田ハ錦州省阜新縣及一部義縣ニ跨リ延長新邱ヨリ清河
門ニ至ル長サ七〇幅八籽乃至二〇籽ノ炭田ニシテ新義經ハ炭
田内ヲ從貫シ炭田中心部海州驛ヨリ東六三籽ニテ新立屯驛西
六八籽ニテ義縣ニ至ル

海州驛ヨリ主要都市及港灣ニ至ル籽尺左ノ如シ

錦 縣

一一八、九籽

壺 盧 島

一八二、五籽

河 北

新立屯經由
義縣經由

二五三、〇籽
二七三、七籽

奉 天

二五〇、五籽

炭田開發ノ目的ヲ以テ敷設セラレタル新義線ハ昨年十一月本
營業ヲ開始セリ

2. 炭 層

新邱區域ハ十數枚ノ炭層ヨリ成リ合計層厚三〇米内外ニ達ス
孫家灣區域ハ五十枚ヨリ成ル炭層群ニシテ各層中厚キハ三〇
米以上ニ及フモノアリ合計一一〇米ニ對スル部分モアリ非常
ニ變化多シ

3、埋藏量四十億噸（阜新炭田）

二千八百九十萬噸（八道壕炭田）

4、炭質及用途

炭質ハ灰分硫黄分共ニ少シ瀝青炭ニシテ撫順炭ニ相似シ一般工業用鐵道用、船舶並家庭用ニ好適ナリ

發熱量ハ六五〇〇—七五〇〇カロリー程度ナリ

八道壕炭（阜新炭田外）ハ色漆黒亞瀝青炭ヲ褐炭ニ近イ脂肪光澤ナ有シ風化シ易シ

5、採炭

(1) 露天 天 堀

イ 孫家灣 露天堀

別土用トシテ「エキスカベーター」二台二二〇—B 電氣

シヨベル二台アリ、尙硬及石炭運搬用トシテ電氣捲揚機

二〇〇馬力三台一五〇馬力三台アリ「エキスカベーター」

ニ於テハ三二立方碼「ダンブーカー」ヲ用ヒテ硬チ硬拾場

ニ運搬、硬排除ニハ「スプレッダー」ヲ用フ

今迄ハ露天堀準備ニ忙殺サレ未ダ露天堀トシテ充分發達

シオラス極力整備ヲ急キツツアリ

ロ 新邱 露天堀

1、位 置

牡丹江省密山縣ニ在リ虎林線瀋道驛ノ西南約五料林口ニ七一

料、牡丹江ニ一八二料

2、沿 草

當礦ハ河北溝ノ一部チ康徳元年（昭和九年）林密線建設測量

隊員ノ發見セルニ始マル、翌三年四月滿鐵滿炭合同シ瀋道チ

中心トシテ附近ノ露頭調査ヲシタル結果當地區ノ有望ナルチ

確知ス時恰モ圖佳線ノ一部並ニ林密線ノ開通ヲ見ルニ及ヒ急

激ニ鐵道用炭供給ノ生シタルヲ以テ直ニ開坑準備ニ着手シ爾

來開發ニ主力ヲ注キ現在ニ至ル

3、炭 層

變化多ク何枚アルカ未タ判然セス又層ト層トノ關係モ判然セ

サルモ七層位アルモノト推定サル厚サ〇、八一—一、八米

ナリ傾斜ハ二〇—四〇度ナリ

4、埋 藏 量

五億噸

5、炭質及用途

粘結性ナ有スル良質ノ瀝青炭ナリ、鐵道、工業用コークス原料及家庭用ナリ

採炭比ハ一、八七ナリ表土及岩石ノ厚サ平均一四米

(2) 坑 内

採炭及掘進ハ「ロツクドリル」及電氣「ドリル」ヲ使用ス

6、主ナル施設

(イ) 發 電 所

從來八道壕採炭所ニ三二〇KWノ發電設備ヲ有シ八道壕孫

家 採炭所及其他新規開發事業ニ供給ナシ居リシモ電力不

足ノタメ七〇〇KWノ自家發電所ヲ海州ニ設置セリ

(ロ) 選 炭 機

從來海州ニ毎時一〇〇噸處理ノ選炭機二台並新邱ニ毎時四〇

噸處理ノモノ一台ヲ有シタリシモ増産ニ應スルタメ更ニ二年一

〇〇萬噸及新邱二年一〇〇萬噸處理選炭機新設中ナリ

(ハ) 坑 外 運 搬

孫家灣、五龍ニハ電氣機關車ニ依ル運炭設備完了ス、高德太

平ニ對シテハ選炭場迄「ベルトコンベヤー」運搬ノ計畫アリ

尙通氣保安施設ハ八道壕ハ自然通氣ニシテ他ハ坑内淺ク見ル

ヘキモノナシ

四、密山 炭 礦

6、採 炭

拂面ハ約五〇米行拂ノ長壁式ニシテ「コールドリル」ニ依ル

發破掘ナリ、充填ハ「ブラシ」ヲ帶充填法ナリ

7、通氣及保安

瓦斯アレ共通狀態ハ自然通氣ニシテ比較的良好ナリ

8、照 明

油安全灯ヲ廢シ電氣帽上安全灯ニ變更シツツアリ

9、主ナル設備

蒸氣捲揚機一〇〇馬力一三〇馬力各一台ヲ有ス選炭機ハ毎時

八〇噸處理乾式二台据付完了シ更ニ毎時二〇噸ノ水洗機設備

中ナリ

發電所ハ一、二五KW（目下七〇〇KW發電）發電所新設略

完成ス尙二坑、三坑ハ坑外電車運搬設備中ナリ

10、出炭及販路

本炭礦ハ當社創立後開發セラレタルモノテ目下十萬噸程度ノ

出炭ニシテ販路ハ林口、勃利、牡丹江方面へ地質トシテ向ケ

ラレテキル外鐵道用炭トシテ虎林線、圖佳線、濱綏線等ニ仕

向ケラル尙茂山鐵道ノ開發セラレル曉ハ之カ「コークス」原料

炭トシテ嚙望セラレテキル

會社ノ業務概要 (但シ正炭)

1. 炭鑛別出炭量

(單位千噸)

炭鑛名	年度別				備考
	康徳元年 昭和九年	康徳二年 昭和十年	康徳三年 昭和十一年	康徳四年 昭和十二年	
復州	一五六	一五二	一四六	一三一	備考 其他トハ通化、和龍、舒蘭、東寧田師 付各調査班ノ出炭ヲ示ス
八道壕	七一	八八	九八	六一	
阜新	三四	五七	一一五	六〇七	
尾山	休		礦	中	
密山	一	二三	七四	一一二	
札賚諾爾	一四	五七	一三一	一六二	
鶴岡	三二六	二九一	三六五	五四二	
西安	五三四	ぞ三一	九一五	七九八	
北票	二八〇	二八八	三二二	三四四	
其他			三〇		
合計	一、五一五	一、六八七	一、四一五六	二、七八六	

參考

消費規正用炭配給に
官民合同協議會設置

商工省では石油消費規正に伴ふ工場、鑛山などにおける設備の轉換擴張または新設により新たに石炭を使用しあるひはこれが需要増加を見るに至りたる向きに對してはかねて軍需に準じ優先的にこれが配給をなさしめることとし地方廳ならびに民間石炭業者と協力、積極的にこれが措置を講じて來たところ今回更に長期建設の時代要求ならびに消費規正用炭の引合増加の現状に鑑み一層これが徹底を圖るため一兩日中に燃料局長官ならびに臨時物資調整局次長の名を以て地方長官宛に通牒を發し左の要領により官民合同の協議會を組織せしめることとなつた

- 一、協議會は地方廳の關係官、石炭供給者および需要者をもつて組織すること、但し石油消費規正地方委員會を利用し得る向にあつてはこれを利用すること
- 二、地方廳においては石油消費規正用炭(以下規正用炭と稱す)の月割所要量、希望炭種、用途および使用場所などを調査し石油消費規正用石炭の需要者別明細書を作成しこれを協議會に提出して規正用炭の割當をなすこと
- 三、規正用炭の割當をなすに當つては需要者ならびに供給者の希望、從來の取引關係または地方の特殊事情などを參酌してこれをなすこと、但し昭和石炭株式會社については同社製造の供給者において大體七十%を引受けしめらることに諒解濟なり

四、地方廳においては新たに設備の轉換擴張若くは設置をなし又は轉換したる設備の休止、廢止若くは讓渡をなしたるため規正用炭の需要につき著しき變動ありたる時はその都度石炭供給者側に通告すること
五、地方廳においては規正用炭の配給を圓滑ならしめるため必要ありと認むる時は組合などによる共同販賣または共同購入の途を講ぜしめること

鑛業法の改正に就て

鑛業法の改正は從來屢々要望されてきたところであるが戦時經濟體制の強化につれて鑛物資源の國內自給といふことが痛感されるに至り、鑛業の重要性が再認識されるとともに、また鑛業自體の改正が朝野の關係方面で喧しく議論されることになり、商工省も結局これらの情勢に鑑み、昨年十月官民の權威から成る鑛業法改正調査委員會を設置しその根本的改正に着手したものである。

ところがその結果、傳へられるところによると同法の全

面的改正は何分同法自體が極めて複雑多岐にわたつてゐて甚だ容易でないものでこれは今後の仕事に譲り、一先づ懸案の鑛害賠償問題を解決することになり、このほどその成案を得るに至つたのでこれを次期議會に提出することになつたと云ふ。

勿論銅製煉に伴ふ煙害、石炭採掘の場合における土地陥落など、鑛業者對地方農村とのあひだに惹起されるトラブルは常に關係方面の頭痛の種となつてゐたもので、これに一定の法的基準を與へて適正な解決を圖ることは、鑛業自體の發達といふ點からばかりでなく地方農村の經濟力を維持するといふ點からも適切な措置ではある。

しかし、既に言ひ盡されてゐることではあるが、現行の鑛業法は餘りに「鑛業」を權利義務の對象化し過ぎて鑛業界の實情なり、發達なりを無視し過ぎた嫌ひがあることは否まれないところである。その結果は「試掘」「採掘」と元來一本建であるべき鑛業權に段階がつけられたり先願主義を採るため、後願者は先願者に對する處分が濟むまでは何年でも折角の鑛業開發計畫を持ち腐れにしておかねばな

らなかつたり、さらには「鑛業」自體を法規で制縛し過ぎる結果、鑛業權自體が經濟取引の對象となつて折角の鑛業法が、睡眠鑛山の續出を招來し、鑛業は少しも發達しないといふ醜體をさらけ出してゐるのは、既に周知のところである。

従つて商工當局でも之らの點に留意して委員會を設け現行法の改正に着手したことは疑ひないが、しかし鑛物資源開發乃至増産といふことは、長期建設、經營のために忽せにできない喫緊事である以上鑛害賠償問題だけで一服せず委員會の全力を傾け同法の全面的改正に急遽邁進されたものである。

昭和十二年度に於ける

臺灣石炭鑛業

臺灣の石炭鑛業は前年中生産過剩に依る不況の後を受け愈々需給調節の必要を痛感し炭業組合が之に乗出し、一月の定時總合に於て定款に大改正を加へ、經費を増額して主

事其他の常任者を置き統制の強化に務めたるが、内地炭界の頗る好況なるに拘らず上期間は尙不況を免れなかつた。

下期に入つて各々需給季に向ふと共に益々統制を強化すべく七月中販賣業者を糾合して石炭商組合を組織し、炭業組合と相提携して需給の調節に努力する事となつたが、七月中支那事變の勃發に因り石炭の需給激増し、内地輸出が著増すると共に外少共一般に需要増加し冬季製糖用炭の需要期に向ふと共に形勢一變して大に活況を呈し來り、前年來逆境に在つた業者も漸く愁眉を開くに至つた。而して當年の需給狀況を示せば左の如くである。

▲出炭高	一、八四、〇〇〇
前年比較増	三二、五〇〇
▲積出計	一、八六、九二五
前年比較増	二六、〇五〇

以上の如く出炭に於て二十五萬餘噸、積出に於て二十八萬餘噸の著増を示して居り、唯輸出のみが僅かに一萬餘噸の増加に過ぎぬが、移出に於ては上期の九萬餘噸から下期には殆んど倍額となり、積出増加の大半を占め尙益々増加の

傾向を呈した。斯くて大に出炭に努めた結果昭和二年の出炭記録百八十五萬噸を小額ながら超過して一新記録を作つたのであるが、一面各炭礦共漸次事變關係の影響を受け金物類礦夫の缺乏を告ぐるに至り、生産費の増嵩と需要の激増は自然炭價を昂騰せしめたるも、其前年來の不況で一旦下落した市價は急に恢復し難く、且つ又以前よりの安値契約等もありて當年中はさして當業者を驚ほすに至らなかつた。北部の基隆臺北地方の炭田が漸く老境に入つた觀ある所から未開炭田の多き新竹州下に漸く着目する者増加し、當年中同州下の出願多く、一方既に出願中の鑛區に試掘を續行せるものに基隆炭礦の南庄奥地に蕃界炭山及び日鑛社の竹東奥地カラバイ炭山等あり、何れも廣潤なる地域に亘る出願鑛區の試掘であるが、未だ採掘の運びに至らぬ模様である。要するに新竹州下の炭田は北部に比し概して運搬の不便と、炭層の不定にして且つ急傾斜なるが其共通の缺點と見られてゐる如くである。

開灤炭鑛第一期擴張の全貌

この程大阪府立貿易館あて同天津分館から達した情報によると内地製鐵用コークス原料として殆んど唯一の開灤炭の擴張計畫はいよ／＼着工の運びとなり、中支大冶鐵鑛の確保により内地製鐵所の擴張が豫想される折柄、これが必要粘炭の増産計畫實現は國內製鐵界の前途に光明を與へるものとして關心を拂はれつゝある、すなはち右開灤炭擴張計畫は既報の如く總計理ネーサン氏の歸英による九月のロンドン重役會において決議されたもので、判明した第一期擴張計畫の全貌は

- (一) 採炭設備の擴張唐山、林西の二鑛區に各一坑のシャフト設備を擴張、之により年額百萬噸の増産を圖るもので所要捲揚機は既に發注濟現地工事に着手したるが完成は來年十月末の豫定
- (二) 洗炭設備の擴張 現在の洗上げ五十五萬噸能力一機に對し、新機械二臺を以て合計洗上げ百五十萬噸能

力の新設を爲し、舊機は廢棄して差引九十五萬噸の能力増を圖るもので新機は既に發注を終り來春匆々英國より到着の豫定で据付完成は來年末とみられてゐる

右炭坑設備、洗炭機擴張の所要經費は六百五十萬圓と見られ、其他専用貨車百輛の増設についても鐵道側と條件に關し目下商議中であり、かくて第一期擴張計畫は來年末を以

て完成のはずでネーサン氏は更に第二期擴張計畫の内容右所要經費三千萬圓の新投資に付てロンドン資本家側と折衝來る二十六日横濱着の豫定であるが、東京にておい來年度契約について商議の上天津歸着は十二月中旬のはずである

爆發につき

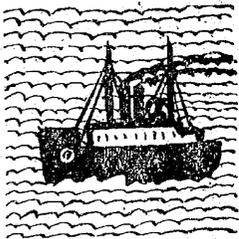
老坑夫語る

さきに夕張炭坑の爆發があり、それから引つゞき一二同様の慘事が發生してゐる。そしてその都度幾十百の人命が無残に失はれてゐる。一般に炭坑に爆發は付き物のように思つてゐはしないか。

ところがこの爆發原因について大部分は漏電らしいとせられてゐるが、過日の藤井炭坑の爆發ははじめてその原因を従業員の不都合行爲と發表した。これこそ恐るべき原因である。自分の多年の體驗から見ると、慘害の九十

％は従業員の不注意不都合だと思ふ。×井炭坑でも、○菱炭坑でも、△川炭坑でも、自分の知つてゐる限りの炭坑の過去の慘事は皆これで、その不都合とは坑内で嚴禁されてゐる煙草を吸ふことである。長く坑内生活に馴れると、ツイ恐い原因となることを忘れて、ポケットに忍ばせて來た一本のバットに夢中になる。

炭坑の上役などはそんなことは知らない、係員くらいは知つてゐるにしても、昔は自分達もやつて來たので、さうやかましくはいへない、そこから大事は出發する。國家生産の原動力である石炭を産むこの炭坑の慘事防止に嚴重な措置を熱望する。



石炭船運賃

一、汽船運賃

イ、遠洋

倫敦市況は相變らず不味閑散にて、氣配引立たず不透明で運賃も一般に抄々しくない。

新穀の移動は不振で、西貢—歐洲の米、並に大連—歐洲の大豆は共に二十六志見當である。船腹過剰は市況の發展性を缺き、辛じてライナーを消化するのみにて、遠洋は低調を續けてゐる。

ロ、近海

荷動きは好調で特に中、少型船は武漢三鎮の陥落により我大陸政策に要する資材の輸送に内地—支那間の船腹需要

の増大を約束する

適船の手當難は一層の深刻さを加へ、運賃も近海航路は特に強調を示し、若松—仁川の石炭運賃は昨今五圓見當を唱へ、前月中旬に比し一圓八十錢方の急騰を見た

ハ、石炭

需要期に入り出炭は漸増の形勢なれど、船腹難は益々甚だしく、標準運賃たる、若松—京濱間は固着状態であるが統制外航路に於ては依然動搖の氣味にて船主は採算有利な方面に配船せんとする傾向である。

宇部—芝浦五圓二十錢、仙崎—芝浦五圓五十錢、西戸崎—伊勢四圓六、七十錢見當である

最近成約運賃は若松より

仕向先	今月中旬	前月中旬
京濱	四・八〇	四・八〇
川崎	五・〇〇—五・〇〇	五・三〇—五・〇〇
伊勢灣	四・三〇	四・三〇
大阪川入	三・〇〇	二・九〇
敦賀	四・〇〇	四・〇〇
仁川	五・〇〇	三・二〇—三・〇〇

(十一月十五日迄の海運特報に據る)

二、帆船運賃

帆船運賃は石炭需要期に際し益々強調を示し、十一月協定運賃は若松大阪間は十五錢の大巾値上げを見、三圓三十錢となつた。石炭輸送用機帆船の減少は特に甚だしく如何にして輸送の圓滑を期し冬の需要期を切抜けるかは只今炭界の重大問題の一つである。荷主は輸送に焦慮し船腹の争奪戦を演じ遂に荷主側から運賃を釣上げる結果となつた

十一月若松港協定運賃表

若松石炭荷主聯合會

(單位一噸に付)

仕向地	運賃 前年同期	仕向地	運賃 前年同期
和歌山縣		和歌山	三・九
山良	三・四		三・〇〇
大阪府		吉見	四・〇
樽井	四・三		三・一四
佐野	四・〇	岸和田	三・六
	三・一四	大阪	三・〇
堺	三・四		二・五

兵庫縣

尼ヶ崎	三・三〇	西ノ宮	三・三〇
神戸	三・三〇	洲本	三・三〇
明石	三・三〇	江井カ島	三・三〇
二見	三・二〇	別府	三・二〇
高砂	三・二〇	會根	三・二〇
木場	三・二〇	飾磨	三・二〇
網干	三・二〇	那波	三・二〇
相生	三・二〇	赤穂	三・二〇
岡山縣			
片山	三・二〇	牛窓	三・二〇
鹿忍	三・二〇	岡山	三・二〇
岡山川入	三・二〇	官ノ浦	三・二〇
幸西	三・二〇	小串	三・二〇
彦崎	三・二〇	宇野	三・二〇
玉田	三・二〇	日比	三・二〇
田ノ口	三・二〇	味野	三・二〇
玉島	三・二〇	笠岡	三・二〇

廣島縣	福山川入	二、六九	二、〇〇	川ノ江	二、八二	二、九二	西條	二、五五	二、二四	
福山	二、五三	福山川入	二、六九	二、〇〇	新居濱	二、七〇	二、〇〇	壬生川	二、八一	二、一九
鞆	二、九〇	因ノ島	二、五〇	一、五五	今治	二、三六	一、八六	菊間	二、五〇	一、五五
尾ノ道	二、五〇	糸崎	二、五〇	一、五五	堀江	二、五〇	一、五五	高濱	二、三六	一、八六
三原	二、五〇	竹原	二、五〇	一、五五	三津濱	二、三三	一、八一	長濱	二、三三	一、八一
阿賀	二、三六	吳	二、三六	一、八六	宇和島	二、五五	二、二四	八幡濱	二、五五	二、二四
廣島川入	二、四七	宇品	二、三三	一、八一	備考					
山口縣					一、各地方共二五〇噸以上ハ上記運賃ヨリ應貳錢引キノ事					
岩國	二、〇〇	今津川入	二、五五	一、八六	二、各地方共陸下ノ瀨取ハ上記運賃ヨリ應參錢引ノ事					
三田尻	一、九一				三、大阪行ニシテ荷揚ゲノ際節分ケスルモノハ上記運賃ヨリ應參錢増シノ事					
德島縣										
德島	三、四三	小松島	三、〇〇	二、七〇						
撫養	三、三〇									
香川縣										
小豆島	二、八三	高松	二、五五	二、二四						
林田	二、五五	坂出	二、五五	二、二四						
丸龜	二、五五	多度津	二、七二	二、二二						
觀音寺	二、五五									

戸畑驛炭積機使用 汽船積石炭取扱手續改正



時局下に於ける石炭輸送の萬全を期するは一に各種作業の能率化と輸送施設の效果的運用にあるを以て之が實行に關しては、豫てより關係業者間に於て協議中であつたが

就中戸畑驛汽船積石炭取扱の改善の如きは現下の情勢に照し最も緊要なれば當局に於て慎重考究の結果、今回大體の成案を得たるを以て大要左記の如く取扱手續を改正近日より實施せられる模様である

- 手續改正の大要は左の如くである
- 一、取扱船舶の範圍
汽船帆船等ノ別ナク積載能力三百噸以上ノ船舶ハ原則トシテ取扱フコト、ナレリ但シ一船ノ積込噸數ハ其船ノ積載能力ノ五割以上ナルヲ要ス
 - 二、集炭時間
最近ノ實情ハ大部分ガ數店ノ聯合積ニシテ且ツ炭坑別ノ

集炭單位モ著シク小口トナリタルニ付集炭時間ヲ左ノ通短縮セリ

- | | | |
|------|------------|---------|
| 船積噸數 | 五百噸未滿ノモノ | 十八時間以内 |
| 〃 | 一千五百噸未滿ノモノ | 二十四時間以内 |
| 〃 | 二千五百噸未滿ノモノ | 三十時間以内 |
| 〃 | 二千五百噸以上ノモノ | 三十六時間以内 |

- 三、境界積
境界積ヲ爲スモノハ一境界ノ最低ヲ二百噸トシ、一境界ノ平均三百噸以上ナルトキハ右ニ依ラザルコトヲ得
- 四、優先輸送
優先輸送ノ制度ハ其ノ必要薄弱トナリタルヲ以テ總テ之ヲ廢止セリ
- 五、集炭ニ對スル石炭車ノ配給
當該炭坑ノ全配給標準(除無賃扱省用炭)迄振替配給シ

得ルコトトシ、配給ノ的確ヲ圖レリ

六、輸送列車

船積作業ニ支障ナカラシムル爲、集炭ニ對スル積込開始
及最終輸送列車ヲ運輸事務所ニ於テ指定スルコト、セリ
七、船積ノ取消

繫船豫定時刻經過後、三時間以内ニ繫船ノ見込無キモノ

ハ石炭船積ヲ取消シ陸下其他ニ變更セシムルモノトス、
但シ戸畑驛長ニ於テ事情已ムヲ得ザルト認メ運輸事務所
ノ承認アル場合ハ更ニ三時間以内ノ延長ヲ認ム

八、其他

申込書並ニ船積積付順序ノ様式ヲ制定シタル外尙若干ノ
改正ヲ行ヒタリ

なんでも
わかる

常識大學講座 (一)

▲總動員法第十一條

池田藏商相、板垣陸相の大乗的見地から、一時危機を思
はせた總動員法第十一條發動問題も政治的解決なり、企畫
院を中心に關係各省の事務折衝に移すことになつた

さて問題の第十一條前文は左の通りである「政府は戦時

に際し國家總動員上必要あるときは勅令の定むる所により
會社の設立、資本の増加、合併目的變更、社債の募集、若
くは第二回以後の株金の拂込に付、制限若くは禁止を爲し
會社の利益金の處分償却その他計理に關し必要なる命令を
爲し又は銀行、信託會社、保險會社その他勅令を以て指定
する者に對し資金の運用に關し必要なる命令を爲すことを

得

以上の如くで現行の臨時資金調整法で出来ない資金の積

極的貸付命令も發し得るし、配當の制限も出来るわけでこ
の配當制限規定を含むところが俄然問題化したのである。
賛否兩論の可否は別として、その主張するところは、一つ
は時局産業は國家奉仕の念を以て、利潤だけ配當や賞與に
振向けず、社内に保留して、今後益々生産力の擴充に當る
べきであるとし、その他政治的理由としては舉國一致體制
編成上の必要から主張されるものである。一つは配當制限
は生産力の擴充を阻害し、増税等による負擔激増の折柄、
更に配當制限を行ふことは企業心理を減却し、發展途上に
ある産業の萎縮を來たし、財界混亂の懸念があると云ふ經
濟的理由に據るものである。そして首相の裁定は同法を全
面的に發動はするが後者の懸念は勅令において充分考慮す
るといふにある

▲九ヶ國條約

アメリカ國務省は十一月三日九ヶ國條約の有効性を強調
し日支間の紛争は此の條約の精神に従つて解決すべきこと
を主張する文書を發表した、右は同日のわが大陸政策宣言
に關する「暗黙の回答」と見做されてゐる。

九ヶ國條約は一九二二年二月ワシントン會議終了に際し
て米國全權の提出した對支四原則に基き日、英、米、佛、
伊、支、伯耳義、和蘭、葡萄牙の九ヶ國が支那に關して申
合はせた條約であるが主として(一)支那の主權の獨立、
領土的行政的保全の尊重(二)商工業上の門戶開放並に機
會均等主義(三)特殊利益の排除等を規定してゐる、尤も
當時既に我國は他の列國と異り支那に接近する上から特殊
の關係を有することを宣明し、租借地、軍隊駐屯、郵便局
鐵道、關稅等の取決めの中に或程度の特種關係が認められ
てゐるのである

しかし締結後約十六年を経た現在東亞の情勢は全面的に

變化を遂げて居り同條約の精神は到底維持され得るものではなく我外務省に於ても同條約廢棄の意嚮を有してゐると傳へられてゐる

▲我國工場狀況

今次事變下の我が産業界の生産活動の熾烈化は實に躍動的な進展を遂げてゐるが、試みに最近商工省より發表された昭和十二年末現在の工場統計速報を資料に生産活動狀況を窺つて見よう

× ×

即ち昭和十二年末現在に於ける全國工場數は十萬六千二百五十五工場、前年同期に比較し一萬五千六百五十三工場（一割七分三厘）の激増、昭和四、五年當時の工場に比較すれば正に二倍に達せんとしてゐる、この全國工場總數のうち職工數、生産額其他の調査集計を終了した四十縣分（北海道、福島、東京、岐阜、京都、大阪、愛媛は集計未了に付之を除く）に就て見るに、工場數は六萬一千七百五十二工場前年同期に比較し八千九百九工場（一割五分一厘）の

×

×

この制度は保税工場制度を擴充したもので、保税工場と

▲特殊保税工場制

輸出振興策の一として採り上げられた特殊保税工場制は着々其の効果を擧げ、既にこれが指定を受けた工場は三十に達し、目下當局に出願中のものも三十に垂んとしてゐる。

×

×

は仲繼貿易品たる外國貨物に加工し若しくはこれを原料として製造し、または外國貨物の改装仕分其の他の手入をなす工場で税關長の監督下に置かれる。この制度は輸入原料に加工して輸出する場合に輸入税の徴收の免除、その他諸船の手續が簡易化されてゐる。最近の如く輸出振興の急務が高唱せられリンク制が實施されてゐる場合に、一々面倒な輸入手續を踏み、輸入税を支拂つてゐたのでは、種々の点で不利不便が少くない。

×

×

そこでこの保税工場制を擴張して當局の許可を得て一般工場にもこの制度を擴張し、これに大藏大臣の爲替許可と商工大臣の輸入許可を連結して、特殊保税工場となして原料を輸入し製品輸出のコースを圓滑化し、以て輸出増進の一役を振り當てたのである。

▲米國中間選舉

十一月八日行はれた米國の中間選舉は共和黨の目覺しき進出に終つたが、米國憲法の規定によれば、上院議員數各

×

×

今回の場合は一九三六年ルーズヴェルトが再選された大統領選舉と四〇年の選舉との『中間選舉』に當るわけである。なほ議員の任期は奇數年の三月四日から滿二ヶ年を一期とし各偶數年の十一月の第一日曜日の次の火曜日に改選される規定が存在するため、十一月八日が選舉日と決定されたとして新しい議員は明年十二月の議會から議場に姿を現はすこととなる。

×

×

又米國の選舉は所謂『二重選舉』であるため、今回の中間選舉も今年初夏頃から九月上旬までに、既に民主、共和

等各黨派内の議員候補者が選挙され、今次その候補者の中から更に新しい議員が選出されたわけでこの點はさきの大統領選挙におけると同様である

▲實驗政策の轉換

共産黨の進出とニューディール派の敗退を記録するに至つたアメリカ中間選挙に關し全米商業會議所は此の結果を以て政府政策の除行化を要求する危険信號となし、隨つて來るべき第七十六議會に於ては政府は從來の如き實驗政策でなく眞實の革新政策に進むであらうとして左の如き見解を述べてゐる

選挙に現はれた國民大衆の人氣は計畫經濟及景氣回復目的の巨額の政府支出に對し不信を表明したものである、來るべき議會は恐らく次の五つの大問題に當面するであらう

- 一、政府の資金支出に對し議會が果して全面的な統制力を回復し得るか否か
- 一、放漫なる救済を許すべきや否や

年月を言つて調べてもらへば局から更に本局へ問合せ調べてくれます

+ +

【十年放置】 次に十ヶ年放置してあつたものゝ場合は受取人が死亡してゐる時は生存の形式で全拂してもらふと、若し通帳が無い場合は局からの通知に記番號がありますからそれで前と同様再度通帳請求をし、なほ貯金を續けるか、全拂をしておもらひなさい、それから「判」を紛失した時には改印届を出して新しい印でやる事が出來ます日數は一週間もあれば再度通帳請求、改印届とも出來ます

十ヶ年も放つて置くと郵便貯金も馬鹿に出來ない利子がついてゐます現在の十ヶ年放置の人が四十五万人、金額にして百万圓近くあるそうです、これは受取人がなければ國庫の所有になつてしまふのです

▲一 錢 經 濟 學

とかく一錢といふとバカにしがちですが塵も積れば山と

一、公債發行によるポンプの誘ひ水政府を繼續すべきや否や

一、民間企業と競争する新規企業に補助金を與へるため政府資金借入を引續き許すべきや否や

一、巨額の軍費支出による豫算の膨脹を放置すべきか、或は豫算膨脹を喰ひ止めるため他の方面に於て何等かの節約をなすべきであるか

▲郵便貯金の知識

郵便貯金の通帳を紛失してしまひましたがどうすればいいでせうか、また五十錢を残したまゝ十ヶ年放置して局から通知があつたため急に調べて見ましたがその通帳が見當りませんが

【通帳紛失】 通帳を紛失した時には通帳の「いろ五三六四五」といふやうな記番號が判つてゐれば近くの郵便局に再度通帳請求届をすれば新しい通帳を呉れます、再度通帳請求届は十錢で出來ます、若し記番號が判らない時にはその通帳を出して局に行つて通帳を出してもらつた大體の

なり「一錢を輕んずるものは一錢に泣く」——然らばこの銅貨一枚がどのくらいの働きを持つてゐるか、次は電力の場合

X X

酒の爛……お酒の爛なら一升四合大丈夫、晩酌には少々過ぎますよ

ライター……應接間用のライターだと三千八百本の煙草に

火がつく、相當愛煙家でも二月は持ちませう

洗濯器……洗濯器を使ふと單衣なものなら廿五枚は十分、

どんな大家族でも一遍にお引受けませう

扇風機……扇風機が六時間もブン／＼廻るとは聞いただけで汗が引つこんでしまふ、季節外れだが電氣コタツも同じく六時間です

電氣火鉢……お序に電氣火鉢は五十分、電氣掃除器は八疊

一部屋を完全に快適な安息所してくれます

冷蔵庫とスタンド……電氣冷蔵庫は一時間以上、水蜜桃が

食べごろでせう、勉強家のため十六燭光のスタンドをつ

けると七時間半みっちり讀書が出來ます、

さて最後に呼鈴は一日十回として一年以上とは驚きましたね
(大阪市電氣局内電氣普及會調べ)

▲暖房經濟學

暖房用の燃料は時間を長くただけに一寸した注意でも随分經濟がとれるものです、以下いろいろのストーヴについて經濟的な扱ひ方を申し上げます

石炭ストーヴ 石炭の塊は出来る限り大きいまゝ用ひる事です、どうしても大き過ぎて割らなければならぬ時は火の側に置いて温めてから軽く金槌で叩くと無駄な粉を出さずに手易く割れます、そして大きな石炭を下に小さい石炭を上にとすると火の保ちも保温力もよく、適度な温度になつたらその上から粉炭をかけて蒸すやうにするとても經濟です、使用後の塊で眞赤に焼けてゐるものは水をかけるか土の中に埋めておけばコークスの代用になります

煉炭ストーヴ 始めの點火法がまづいと片側だけついたり、途中で消えたりしますから、木炭は少し多目に平に置いて煉炭が途中で傾かないやうにします、家庭用の煉

炭は耐水性が弱いから屋内に貯へておくことで木炭と同じく火保ちをよくするため水をかけ過ぎたりすると、途中で崩れてしまふことがありますから注意して下さい、夜分必要より早く煉炭が燃えてしまひ相な場合はその煉炭の上に柔かい炭をのせ更に堅炭をついでおくと二、三時間は温かさを保ちます

瓦斯ストーヴ 始め振子口を全部あけて早く部屋を温めてしまひ、温つたらその温度を保つ程度にして振子口を小さくします、始めから弱火で温めやうとすると却て不經濟です、瓦斯孔にゴミが着いてゐたり、マントルが曲つてゐたりすると赤い焰が出てガスが無駄に消耗されまゝからマントルは何時も正しくガス口は毎日ブラシで塵埃を取つておきます、ゴムの管はなるべく人の通らない所に置き、ストーヴも部屋の入口など風の當るやうな所に置かないことで、踏んだり、風で消えたりして、うつかり生ガスを出しはなしにすることがあります、勿論危険でもあり不經濟ですから時々ゴムの管の継目や穴の有無などを調べておくことも大切です

彙報

鑛害賠償法案

來議會に提出

商工省では多年の懸案たる現行鑛業法の根本的改正に着手することとなり昨年十月官民の權威よりなる鑛業法改正調査委員會を設置し鋭意具體案の審議に當つてゐたが、この程鑛害賠償に關する部分の成案を得るに至つたので鑛業法の全面的改正は今後の考究に俟つこととし取敢ず鑛害賠償に關し同法を改正することとなり次期議會に提出することとなつた。現行鑛業法は明治三十八年の制定に成り、時勢の推移と共にその不備が痛感され以前よりこれが根本的改正が要望されてゐたのであるが、生産力擴充に伴ふ増産の見地から益々その必要を生ずるに至つた。従つて改正の趣旨は從來の鑛權業者の保護中心主義に對して經濟的性質を加味しこれを適當に按配せんとするにあり、鑛業法自體の複雑性のためにこれは

容易なことではないので今後に残し、一先づ懸案の鑛害賠償問題を解決することに注つたものである。すなはち石炭採掘による土地陥落、銅製錬に伴ふ煙害等の地方農村に及ぼす鑛害に就いては實際上には個々に賠償が行はれてゐるも増産に伴ふ鑛害増加にかんがみこれを明確に法律で規定せんとするのが今回の改正の目的とされてゐる。當局では今後の鑛業法根本的改正として増産の見地から「現行法で試掘權と採掘權を一本建にすること」「現行の先願主義を廢して許可制を採用すること」等の點を考慮しつゝあるので近き將來において現行重要鑛物増産法の若干の部分をも吸收した鑛業法の全面的改正の實現が期待される。

(日本鑛業)

山東炭鑛開發

滿鐵で具體案決定

「滿洲支社發」北支における炭鑛開發について内地軍需工業ならびに地場消費炭の需要増大に伴ひこれが第一條件として可及的速かな開發が要求されてゐるので、北支統制産業子會社設置の原則たる一社一業制によらず、一業數社制により左記

- (一) 膠濟線(淄川、博山炭鑛)
- (二) 津浦線(中興炭鑛)
- (三) 京漢線(六河溝炭鑛)
- (四) 正大線(井陘炭鑛)
- (五) 同蒲線(磁縣)
- (六) 蒙疆地區(大同炭鑛)

の六大プロダクツ制により開發するに決定をみ、目下中央において如上各炭鑛の資本構成ならびに採炭量などに關する細目具體案が考慮されつゝあるが、このうち淄線、博山を中心とする山東炭鑛の開發については大體その傍系會社たる山東鑛業を主體とし魯大、旭華兩社を通じ従來同地方の炭鑛經營に當つて來た滿鐵が開發會社と共に當る

ことに決定、目下満鐵では之が今後の具體的經營方針につき慎重検討をすゝめてゐる山東における炭礦の開發具體案は、大要左の如く落着するものとみられてゐる。すなはち

一、淄川、博山兩炭礦の開發のため北支開發の子會社たる炭礦會社を開發會社と、もに設置し、從來の山東礦業を主體とする投資會社を合併せしめる。

二、同時に有力な販賣統制會社を設置し、満鐵がその半額を出資し經營に當る。

満鐵では右方針に基づき大體山東炭礦の全面的開發に當る方針で、着々準備をすゝめて有力な社員も多數派遣の豫定で慎重人選中である。(日刊工業)

三陟炭開發

明年より内地へ

三陟開發株式會社では目下八十坑を掘進中であるが一方礦區内の埋藏量につき詳細調査をなしつゝあつたが、このほど二億七千萬トンを確認し得たのでこの大量の無煙炭を可及的速かに出炭するために五百萬圓の資

本金を一躍三倍の千五百萬圓に増資し出炭第一の明年より内地移出を斷行することとなり近き正式に手續きをこころこゝとなつた。

なほ同炭は輸入制限下にある佛印産のホシグー無煙炭の代用として塊炭に大なる期待がかけられてゐる。(日本礦業)

東見初炭の

大陸輸出許可

大陸進軍に氣を吐く宇部炭工業用炭、家庭用炭として聲名ある年産二百五十萬噸の宇部炭田の雄、東見初炭礦(年産百萬噸)では創立卅周年を迎へると共に礦業報國の大職高く掲げて飛躍體制を整へ、かつて大陸輸出を計畫中であつたが、今回上海清原洋行との間に一萬噸の賣買契約整ひ本省に輸出認可につき手續き中の處認可に接したので、門市市港町中徳商店店扱ひとして備船英國汽船モーター號(四千噸)が十日頃に宇部港に入港することとなり第一回分として二千噸を輸出残るは船舶整ひ次第發送する豫定である。(日本礦業)

阜新炭積出

新目標四百萬噸

滿炭の阜新炭内地輸入の増加は一に積出港たる壺盧島の完成にかゝつてゐるが去月大阪市産業部にもたらされた報告によると壺盧島築港計畫を變更し明年中には百萬噸の能力にまで工事を進め、十五年度には新目標四百萬噸を完了することとなり阜新炭の積出しに面目を新にするこゝとされてゐる。

即ち阜新炭其他輸出の激増に備へ鐵道總局においては大連北鮮經由の二大航路の外壺盧島航路の開發を企圖し、去る昭和十一年以來總經費二千萬圓、吞吐能力三百五十萬噸を目標に進めつゝあつたが産業五ヶ年計畫の飛躍的發展並に事業以來の對北支關係緊密化などにより壺盧島築港はいよゝ重要性を増しつゝあり、今回築港計畫を再検討の結果修正擴充することとなつたので、阜新炭の積出しに劃期的能率の増進を見るこゝとなつた。

現在のこゝろ第三埠頭の基礎的工事を完了吞吐能力も昨年開港當時六萬五千噸に比し約三倍の二十萬噸に達したが新

計畫による總經費三千萬圓吞吐能力四百萬噸を目標として引續き築港の完成を急ぐこゝとなつたもので、これがため明年中には第三埠頭のほかに第二埠頭の使用を開始百萬噸まで能力を擴大し得るはずで十五年度に第二埠頭の完了を以て全能力を發揮する。(日本礦業)

坑壹炭搬出に

苧田港を修築

坑壹炭搬出港としての苧田港修築計畫は去月二十五日の閣議に附議正式決定し愈々明年十四年度以降三ヶ年繼續事業として總經費七百二十萬圓を以て政府直轄工事として着手する運びとなつたが同港の修築計畫概要は次の如くである。

- 一、石炭輸送整備計畫として苧田港を中心に一ヶ年石炭收容能力約三百萬噸の石炭搬出港を造成す
- 二、防波堤千九百米を築造
- 三、浚渫水深干潮面下四米半とし約六十六萬平方米を浚渫す
- 四、埋立四十萬平方米を埋立て鐵道、通信

なほ凡ゆる陸上施設の充實を期す

- 五、工期昭和十四年度より十六年度まで
- 六、總經費七百二十萬圓(内譯)十四年度二百四十萬圓、十五年二百四十萬圓、十六年度二百三十四萬圓。

なほ本計畫はさきに一千五百萬圓の豫算を以て立案されたものであるが時節柄膨大に過ぎるので差當り前記七百二十萬圓に落ち着いたものである。(福日)

福岡礦山監督局

坑夫相談所設置

商工相談所や轉業相談所があつても國策線に沿つて馬力をかけてゐる礦山の坑夫さんが相談に行く處がないのはどうしたものか?との疑問から福岡礦山監督局では全國で最初の坑夫相談所を開くことになり目下準備を進めてゐる。

同局管内では最近より各地五ヶ所に支所が置かれてゐるが、この支所が利用して坑夫さんの本當の相談相手にならうと言ふのである。事業主と従業員との問題に就ては法規と實際とから坑夫達の向ふ道

を示してやり、其ためには日曜日を相談日に決めて役人の袖をこつて一肌ぬがうとして勞資一元化の目的に邁進しやうとするものでまづ飯塚支所から行はれる筈である。(日本礦業)

武漢陷落と

我が石炭界

躍進依然續かん

武漢三鎮の陷落は蔣の輿地進入となり、從來の我が戦争一本槍も應戰建設の併進となり、こゝに經濟的意義が重大となつて來たがこれにより受くる石炭界への影響は左の如きものと見られてゐる。石炭界に於いては積極的戦争行為は一應中止の形となるこゝいへども、今回の巨額に上る物資の消耗による國力挽回、將來に備ふるための重工業化學工業其他一般産業の活動は從來と變はるこゝろなく急激なる變化は豫想されず、依然として軍需工業を中心とする股賑が期待される。従つてこれに伴ふ石炭需要は減少するこゝは考へられず、反つて國力増進による石炭需要増が期待されて居り炭界は依

然進捗を續けるものと觀察されてゐる。

然しこゝに問題となるのは爾後數年間には急速なる北支石炭開發が行はれた場合に於いて内地との圓滑なる需給計畫に一度破綻が生じた場合、内地石炭生産費が漸次上昇して來る關係から内地炭界が北支炭により攪亂される恐れなしとしないが、これは事前に於ける統制如何によることと斯かる事態は萬々發生することはない。

(日本鐵業)

明治鐵業

北支進出か

九州地元の鐵山會社として知られる明治鐵業株式會社(戸畑市大渡通り)では今回北支視察を行ふこととなつたが、時機來らば敢然北支に於て御奉公するといふ所信を披瀝してなり、愈よ北支に對する觸手が蠢動してゐるが、現在北京に調査事務所物色中の同社參事宗近鵬介氏の歸任を待つて優秀社員四名が渡支する。

筑豊炭田の將來性が論議されてゐる今日明治鐵業の新事態は頗る興味をもつてゐる。

(日本鐵業)

増産遂行の炭界に

人的資材不足

【東京】石炭増産五ヶ年計畫の最終目標たる年産七千五百萬噸達成のため炭業界は擧げて増産計畫を進めてゐるがこれが圓滑なる遂行に必要な人的資材の供給を確保すべきであるに拘らず現下の事情はこれと反對に著るしき不足を告げつゝありこれをこの儘放置する時には到底計畫の實現は不可能なるに鑑み石炭聯合會では八日工業俱樂部に理事會を開き該問題につき種々意見の交換を行つた結果、

物的資材供給は不可欠な問題とし又人的資材についても來年度に於ける炭業界への技術者の割當は申込人員の一割にも満たざる有様で従つて一炭礦會社の所要する募集人員は到底望むべくもなく人的物的資材の飢饉は豫想以上に深刻なる事實を發見するに至つたので聯合會では重要な物的資材の内中形軌條(坑内レール)特殊鋼(中空八角鋼鑿岩機用刀物)鑛山用

諸機械中鐵管(ポンプ用)ゴム(ベルトコンベア)の圓滑なる配給につき商工省に對し近く善處方を要望し一方技術者の割當増加についても關係三局に陳情することとなつた。

(九州日報)

治安回復と共に

開採出炭新記録

日産一萬七千噸は容易

大阪府立貿易館入報製鐵用コークス原料として最も多く需用されつゝある開採炭は一時豫定の出炭が危ぶまれてゐたが、同地區の治安回復と共に九月以來漸次出炭量を増加し、十月には遂に創始以來の新記録を現出するに至つた。

すなはち同月五日の日産量一萬七千二百噸、同二十五日一萬八千二百噸と尻上りの好成績で、從來日産一萬七千噸突破は技術的に不可能視されてゐたが、この新記録は關係者を驚かせてゐるが、この調子で行けば日産一萬七千噸保持は容易と見られてゐる。一方これに對し同炭の輸送狀況も漸次改善

され十月二十七日には一萬八千四百噸の記録的輸送狀況を示してゐる。かくて今後大治鐵礦により内地製鐵所の大擴張が豫想されてゐる折柄、開採炭のかゝる好調は大いに期待すべきものと見られてゐる。

(日本燃料)

常磐炭礦業者

聯合會結成

常磐炭田のアウトイサダー有煙炭礦十九を以て結成される常磐炭礦聯合會發會式は内郷村内郷館に於て開催されたが出席者は發起人たる日曹鐵業中島基熊氏、隅田川炭礦小田吉治氏、磐城炭礦戸部光衛氏、壽炭水野一壽氏のほか参加炭礦代表廿餘名であつた。開會直ちに議案の審議に移り、會則の作成、理事及び會長の選舉、會費割當の決定、商工省其他官廳への提出事項を決定午後六時散會した。同聯合會成立の動機は商工省の組合結成督促によるもので去月初旬發會を了したる無煙炭同業者とタイアップしてアウトイサダーの有煙炭礦を悉く網羅して生産並に販賣の自治統制にあたるも

のである。尙参加炭礦名及び役員は左の通り。

- 参加炭名 小野田岩崎炭礦、日曹小田炭礦、隅田川炭礦、磐城炭礦、五十嵐炭礦、神奈川炭礦、浪花炭礦、壽炭礦、越智炭礦、内郷光三坑、日野炭礦、若松炭礦、大星炭礦、東炭礦、不動澤炭礦、常磐炭礦、福島炭礦、日曹赤井炭礦、高階炭礦、役員—會長 中島基熊、理事小田吉治、戸部光衛、水野一壽、遠藤鼎(東)矢郷倉藏(神奈川)中村貞三郎(浪花)

(日本鐵業)

物資調整局事務官

中村氏、大陸へ渡る

石炭需給計畫に關し

戦時財濟政策は武漢の陥落により長期建設の段階に入り北支の開發は七日の北支開發會社の成立と相俟つて急速に具體化する段取りとなり石炭に於いても日滿支一體の需給計畫樹立の必要性が強調されてゐるが、物資調整局中村事務官は四日東京を發ち北支および滿洲視察旅行の途に上つた

同氏の渡支の目的は來年度日滿支一體の石炭需給計畫樹立の下準備と見られるが刻下の問題として原料炭が不足してゐるので之れが對策として中興炭の輸入を行ふべき計畫が進められてゐるから同氏は内地の原料炭不足の實情を現地軍當局に披瀝して中興炭輸入に拍車をかけるものとして注目されてゐる。(日刊工業)

石炭の購入額

初年度四千萬圓

日本發送電會社が設立されると同社は國鐵日鐵につぐ全國第三位の石炭需要者となるが九日の特別委員會で決定した事業自論見書によると同社の初年度石炭消費高は四百卅萬噸とされ、初年度石炭購入費は約四千萬圓といふ形大な數字を示してをり、この石炭價格の算定は遞信省と商工省の協議を基礎とするものでトン十八圓六十錢と算定されてをり、議會當時の炭價に比し噸四圓六十錢(約三割)の騰貴であるがこの石炭購入費の膨脹が日本發送電會社設立によるわが國電力料金的大幅引下げの障礙となつ

たものである。

日本發送電會社の石炭消費量は今後年々四、五十萬噸増加することゝなつてゐるので石炭購入問題は日本發送電會社の成長につれますます同社經營上の最重要問題となるであろう。(門司新報)

炭鑛から石油

長崎縣の松島炭鑛内で發見

戦時日本に大切な石油が九州ではじめて發見され鑛業關係者を驚かしてゐる。場所は長崎縣西彼杵郡大島村の松島炭鑛會社炭坑内で去月二十七日作業中の鑛夫が天井から滴り落ちる液體がどうも油くさいので技師に報告、調査したところ立派な石油の原油であることが判明した。附近を早速掘つたところ極少量しかながつたが、他から滲透したものでなく昔から溜つてゐた天然油で九州地方では沖繩縣下に鑛區はあるが、實際出たのはこれが最初である。右につき福岡鑛山監督局では語る。發見された油はたしかに石油でしかも炭坑内であるから實に珍らしきものだ。石油

は三紀層の新層にしかなく地質學上九州にもあるわけだが、今まで出たことはいさゞ聞かぬ。同地方にまだ出るかどうかがこれから調べて見ぬと分らぬ。今のところ大した量ではないやうだ。(大朝)

石炭行政統合

商工省に一部を新設か

商工省の機構改革案のうち問題の石炭行政の統合案に關しては結局新たに一部(勅任部長制に依る)を置き現在、鑛山局鑛政課工業課ならびに燃料局資源課および臨時物資調整局第二課に夫々分割されてゐる石炭關係の行政事務を全部こゝに移管統一せしめるとの結論に一應達したやうである。しかし乍ら、この私設機關案も結局鑛山局内に置くか、燃料局内に置くか、はたまた兩者から全然切り離すかの點で關係首腦部間の對立と云ふ難關に突き當り、まに／＼大臣の決議を待つほかなき模様である。(日本鑛業)

吉林石炭液化會社

滿洲國、朝望、滿炭で共同出資

【新京】滿洲國政府は豫て重要産業五ヶ年計畫に基き石炭液化會社の設立準備を進めてゐたが、この程成案を得たので近く資本出資に參加の滿炭と打合せの上、十一月下旬愈よ會社設立となる運びで、工場は吉林に設け康徳八年(昭和十六年)完成の豫定である。吉林石炭液化會社設立要旨は左の如し

- 一、資本金を八千萬圓とし四千萬圓を政府出資、三千萬圓を朝鮮窒素、一千萬圓を滿炭よりそれぞれ出資、當初拂込は四分一とす
- 一、工場を吉林に建設し、松花江水力の完成年度たる康徳六年竣工せしむ
- 一、石炭液化技術は朝鮮窒素の方式を用ひ工場建設經營は野口氏に一任
- 一、生産能力は年産三十萬噸を目標とし、原料石炭は吉林北方の舒蘭炭を使用する

(大朝)

滿洲の人工計畫變更

【滿洲支社發】修正五ヶ年計畫の人工石油工業は石炭液化、オイルセル製出に併せて年産二百五十萬噸を目標とし所要資金十億圓を計上、鑛工業部門において製鐵、石炭と共に三大項目をなしてゐるが、その内諱は石炭液化百七十萬噸、オイルセル六十萬噸その他(酒精等)十五萬噸となつてゐる。而して政府では人工石油工業の確立はその中心をなす石炭液化が技術的に非常なる困難が豫想され、然も處女工業なる點を考慮する時に人造石油部門における石炭液化とオイルセル製出との振合をオイルセルに重きを置く方が計畫目標の實現性を確保する所以であるとしてこの程これを多少變更してオイルセル製出を六十五萬噸より百萬噸前後に擴張しそれだけ石炭液化の方を縮小する意向である。

滿洲における頁岩地帯は撫順、羅子溝、三姓などが擧げられてゐるが三姓は種々の理由で放棄し、計畫擴張分は新たに熱河省、凌原、凌南に亘る一帯を候補地に當てることになりこれが調査を滿鐵地質研究所が擔當、大規模なる調査班が現地

原料炭不足せん

全體では過剩氣味

今冬に於ける石炭の需給關係は各方面から注目されてゐるが昭和石炭では左の如く數量全體としての需給は寧ろ供給過剩氣味であるが粘結炭は相當不足となるものと見てゐる。即ち近時の炭界好況に刺戟されて有力炭鑛の増産の進捗に加へ弱小會社の出炭は著しく増加して居り供給オーバー氣味となつてゐるが所謂原料炭は供給不足が懸念される。

すなはち原料炭の出炭は本年度は約千二百萬噸と見られるが此の中純然たる原料炭は約八百萬噸で、之は配給統制規則で確保され既に本年分は手當濟で問題はないうとして残る四百萬噸の粘結炭では到底需要を滿たし得ず平和産業と雖もどうしても粘結炭でなければならぬ産業には相當無理があり、船舶セメント等に對する供給はかなり窮乏となるものと観てゐる。(日刊工業)

において鐵量測定がトリングを開始した凌源一帯の油頁岩は平均含油率一〇％に及び撫順の六％三姓の三％に比して遙に高率で鐵量も五、六千噸に達するものと観測されてゐるが右調査班は年内に調査を完了する豫定でその報告に基き新燃料計畫が確立するはずである。(日刊工業)

商工省の優良炭對策

今冬の石炭需要に對する供給は全體的數量には不足を、す如きことはないが、カロリが高く眞に時局に必要な不可缺なる原料炭並に之れに準ずる優良炭は相當數量の不足が懸念されてゐることは既報の如くであるが斯かる現象に對し政府に於いて適當なる措置を講ぜざる限り益々優良炭供給不足の幅は擴大するものと見られ、漸く之が對策樹立の必要が強調されつゝあることは注目されてゐる。即ち

重工業、化學工業方面の需要が激増しつつあり、之等の需要増は殆んど大部分が原料炭に準ずる優良炭で昭和石炭の一、

二等級以上のものでこれに對する優良炭の増産は増産物資供給の不圓滑、艦召により労働力の減退等で計畫通りの増産が行はれてゐない現状である。而して之が對策として第一に考へられることは中興井原、撫順炭等の輸入であるがこれは北支の治安の現状から差當つて急場の間に合はず、又撫順炭も滿洲自體の需要増により今後の輸入數量は減少しても増加は望み得ない状態である。第二案として時局に必要な炭種の増産計畫實施に對しては鑛山機械の優先配給、政府機關による労働者の優先斡旋により増産促進を圖ると同時に石炭配給統制の強化が考へられてゐる。商工當局も、右優良炭不足の實情を認め種々考慮中であるから近く何等かの對策が具體化する模様である。

(日刊工業)

牡丹江省に 大炭田発見

埋藏量七億トン

牡丹江省密山縣道炭坑近くに埋藏量約七

オリバして若松港頭は貯炭の山を築いてゐるが、一面船舶不足のため石炭の海上輸送の圓滑を缺き今冬の石炭需要旺盛期を眼前に業者は輸送能力不足の對策に腐心してゐる。

しかし各種材料の統制に際し新造船も思ふやうにならず對策に迷つてゐる状態であり季節的需給關係で今回の運賃値上げとなつたが、これ以上の高率な値上げは豫想されず、いづれ石炭輸送能力對策に乗出すものとみられてゐる。

(日刊工業)

電力筋消費炭

九月も亦減少す

昭和石炭調査によれば電力筋の八月中の石炭消費高は二十五萬四千三百六十二噸で昨年同期に比すれば一萬四千七百五十五噸を減少し珍現象を示してゐる。更らに九月の消費高も三十萬四千七百四十七噸で前年同期よりも一萬二千三百八十七噸の減となつてゐることは注目される。尙ほ九月中の地方別消費高は左の如くである

(單位噸△印減)

億トンの大炭脈を發見、燃料國策に凱歌を擧げたが新炭田は城子河の移民團より横槍が入り行機みどころその後移民團側も戰時體制下における燃料資源の重大性にかんがみ移民團全部移轉することに決定し目下新しい村落を物色中で、滿炭側も移民團の大乗的態度に感謝新移民地への移轉經費二十五萬圓を支辨することとなつた。

(大毎)

軍需用炭確保に 官民の連絡會議

商工省明年より實施

商工省の石炭配給統制協議會は目下各分科會に分れられ用途別に石炭の需給調整を攻究中であるが、この程第二分科會(軍需用炭の需給計畫樹立)は左記の如き軍需用炭の配給統制要綱を決定、商工大臣に答申したので、商工省はこれに基き明春一月よりいよいよ軍需用炭の配給統制を實施することとなつた。

一、軍需用炭の範圍は陸海軍官衙又は陸海軍工廠等において使用する直接軍需用炭

並に陸海軍管理工場において使用する石炭とする。

二、右軍需用炭と軍需用炭との需給關係を調整し、以て軍需用炭の供給を確保するため、關係各省關係官及び民間の有力なる石炭業者を以て一種の連絡會議を構成すること

三、右連絡會議において軍需用炭の年間所要量又は半期間所要量を豫め民間側委員に内示しこれが割當を爲すと共に、特殊配炭、原料炭又は軍用上緊要なる石炭に付ては優先配給を爲さしむること

四、軍需要炭並に煉炭に付ても軍需用炭に準じこれを取扱ふこと。(中外商業)

石炭帆船運賃

前月より十五錢高

若松港の十一月分石炭帆船運賃は前月より十五錢の大巾値上げで三圓三十錢(大阪、若松間)となり若松港空前の高値運賃記録を作つた。

炭價統制以來先物契約と裾物炭取引が激減したために山元からの着炭が積出し炭

地方別	八月中	前手對比
關東	五、五五	△五、九四
中部	八	△一、六四
近畿	二二、四九	△六、七三
中國	五、八五	九、九五
四國	四、四六	△八、三三
九州	六、五八	三、〇三
北海道	一五、七二	八、〇元
合計	三四、三三	△二、四、五五
九月合計	三〇、七七	△三、三七

(日刊工業)

石炭販賣業者

全國聯合會結成

時局下に於ける石炭販賣業者の自衛的手段ともみられる全國石炭同業聯合會創立總會とも云ふべき第四回協議會は愈々關係方面の鋭い注目を浴びつゝ去月廿七日正午より東京山王ホテルで開催。東京、横濱、名古屋、大阪、若松の各地より同業團體又は問屋代表五十餘名が出席左記諸項につき審議した而して今回の協議會は從來東京、名古屋、大阪の各地で三回に亘つて協議を行つた結

果の總決算であり、商業組合の全國的結成に迄進み得ぬものとして石炭關係業者殊に大手筋に對し相當影響を及ぼすものとみられてゐる。

- 一、本會は全國石炭同業聯合會と稱す
- 二、本會は事務所を東京に置く
- 三、本會は石炭界の現情に鑑み國策に順應して業界の健全なる發展を期するを以て目的とす
- 四、本會は各地石炭同業統制團體を以て組織す
- 五、本會に加入せんとする者は全會員の同意を要す
- 六、本會は目的達成のため必要に應じ臨時會議を開く
- 七、本會の決議は凡て全會一致たることを要す
- 八、本會に會務處理の爲幹事若干名を置く
- 九、本會の經費は必要に應じ徴収す
- 十、本會會則に規定なきものは必要に應じ協議により決定す

京都石協も

参加に決定

去月二十七日の創立總會に於て結成された

る全國石炭業聯合會には名古屋石炭同業會、大阪石炭同業會、若松合同石炭株式會社、京濱石炭協會の四團體の参加を見たが京都石炭協會、神戸石炭協會は總會までに内部の意見が纏まらなかつた爲保留されてゐたところ、京都石炭協會は二十八日参加を申込來たるを以て直に承認された。之によつて神戸を除く全國有力問屋が聯合會に結集されるに至つたので對生産者交渉に於て問屋側も盲目的從屬を排して堂々の陣を敷くべく之に對して昭和が如何なる態度に出るか興味を以て見られてゐる。

鑛業法改正貫徹に

最後の猛運動

縣下七千七百町歩の陥落地復舊に至大の影響ある鑛業法改正委員會の成行を重視してゐる縣當局並に鑛害地復舊整理委員會ではこの際多年の懸案となつてゐる同問題の法制化促進を圖るため對策に躍起となつてゐるが十一日午後一時から縣廳において縣側から赤松知事、服部總務、田村經濟兩部長、松谷耕地課長、期成會側から松岡副會長及

び井上、原政民兩黨縣支部幹事長等が參集協議を重ねた結果同問題のため上京中の坂本技師が今十二日歸任するのを待つて縣から赤松知事若しくは服部總務部長のいづれか期成會の代表者と共に上京し適正な改正貫徹に最後の猛運動を展開することにまつた。(福日)

筑豊石炭鑛業會

救護演習と修了證授與式

筑豊石炭鑛業會救護練習所では二十九日福岡鑛山監督局長檢閲の下に第六回全筑豊二十六救護隊檢閲演習を直方市頓野筑豊鑛山學校で實施し演習終了後救護練習所課程修了證授與式並に永年勤続救護隊員表彰式を舉行するが參加炭坑は左の如し。
方城△大之浦二坑△大之浦三坑△大之浦六坑△大峰二坑△忠隈△中鶴一坑△同二坑△目尾△下山田△赤池△綱分△田川二坑△同三坑△第一高松(以上指定炭山係)新入△給田△上山田△飯塚△山野△大辻△平山△山内△豆田△吉隅(以上普通炭山關係)二瀬(特別參加)計二十六

坑

(九日)

今冬も輸送難か

石炭積み補助帆船の

大量不足は必至

昨年末から一月にかけての石炭備儲は「しげ」による輸送難が主因だつただけに關係業者の間で非常に憂慮されてゐたが、このにがい經驗に鑑み昭和石炭ならばに其の筋からの夏季貯炭の奨励を力説された市場では季節的障害の除去に努力せざるも、最高價格の公定に随ぐに引下げ命令の省令等矢つぎ早に炭價の引下げが行はれたため、旺盛を極めた小山物の買取りも停頓し期待ほどの市場貯炭を擧げ得るに到らなかつた。従つて全般的に最需期には相當輸送の幅轉を來すものと豫測されてゐた折柄、今回瀬戸内海に就航中の石炭積み二百トン内外の補助帆船が特殊筋需要へ大量移動されるに至つたので、今需期の輸送も亦相當の障害を受くるものと憂慮されてゐる。現在大阪市場へ入荷する石炭の帆船輸送は約三割を占め九州炭の帆船積みにも負ふ輸送能力の

相當大なる点に鑑み今回のごまき大量移動は九州炭の輸送能力を著しく殺減するであらう。(日本燃料)

福岡鑛管内九月中

鑛夫賃銀月収

福岡鑛山監督局管内に於ける本年九月中の鑛夫平均賃銀(調査鑛山二十六)は坑内夫男二圓七十九錢同女二圓十九錢、坑外夫男二圓八錢同女一圓六錢にして一ヶ月の月收平均所得は坑内夫男五十七圓七十七錢(稼働日數二〇、六日)同女三十八圓三十三錢(稼働日數一七、五日)坑外夫男四十九圓七十一錢(稼働日數二三、九日)同女二十三圓十一錢(稼働日數二一、八日)であるこれを昨年同月に比すると平均賃銀に於いては一ヶ年間に坑内夫男は四十六錢(二割)同女は五十八錢(三割六分)坑外夫男は二十三錢(一割二分)同女は一五錢(一割六分)と何れも三割六分乃至一割二分の増加を示し一ヶ月の平均所得に於いても坑外夫男は九圓七十錢(二割)同女は四圓八十四錢(一割四分)坑外夫男は六圓五錢(一割

四分)同女は四圓(二割一分)の増加を示し稼働日數は坑内夫女の昨年より約三日減少を除いては殆んど同一である。これを表すれば次の通り。(單位錢)

平均賃銀		月收所得	
九月	同月	九月	同月
【坑内夫】			
男	二、七九	五七、七七	四七、七〇
女	二、一六	三八、三三	三三、〇〇
【坑外夫】			
男	二、〇八	四九、七二	三〇、六六
女	一、〇六	三三、二二	二九、二二

(九日)

北中支へ十二万屯

筑豊裾物炭輸出

互助會の手で年内に

上海、青島各地の民用炭不足補充の爲、石炭鑛業互助會關係の筑豊炭裾物の輸出問題で互助會では野上會長、同石炭會社武内專務ほか幹部が上京して商工省ほか關係當局を歴訪、具体化につき陳情折衝中のまゝ

年内十二萬噸を急速に輸出する事に決定諒解を得た旨十四日若松市の互助會本社に通知があつた。互助會では直ちに三井、三菱、山下の三社と輸出準備協定中である中日協議決定次第若松より交渉委員が現地に出張することにまつた。(大朝)

本會記事

會社重役會並理事會

十月十八日午前十時ヨリ本社會議室ニ於テ重役會開會野上社長、末吉、北代、中島、金丸、三崎、各取締役出席左記議案ヲ審議ス

議案

- 一、昭和十三年上期營業報告書、貸借對照表、財産目錄、損益計算書承認並ニ損益金處分ノ件
 - 二、監査役全員改選ノ件
- 十月二十九日午後三時ヨリ、於福岡重役會並ニ理事會開會野上社長、武内專務、末吉、北代、中島、山本、金丸、三崎、木曾、田籠、犬丸各重役並西本、山形、和才、葉山各理出席左記議案ヲ審議ス

議案

- 一、分析所復活ノ件
- 二、標準炭價並ニ販賣價格ヲ縣警察部ニ届出ノ件
- 三、滿洲北支皇軍慰問並ニ視察經過報告ノ件

株主總會

十月三十一日午後一時ヨリ本社會議室ニ於テ第四期定時株主總會開會左記事項ヲ附議決定セリ

- 一、昭和十三年上期營業報告書、貸借對照表、財産目錄、損益計算書承認並ニ損益金處分ノ件
 - 二、監査役全員改選ノ件
- 監査役任期滿了、處全員再選重任ニ決定
- 以上

肥前支部諸行事

一、支部創立挨拶ノ爲縣廳訪問

十一月七日 長崎縣廳訪問
十一月十一日 佐賀縣廳訪問
吉原支部長、井家上、兒玉、角口、麓、各理事及互助會職員安西の六名は、前記縣廳を訪問、縣知事、經濟部長、商工課長、警察部長、保安課長と挨拶旁々種々懇談を遂げたり。

一、關係警察懇談會

十一月十日 長崎縣下管轄關係警察（佐世保、相ノ浦、志佐、平戸各警察署）於佐世保警察署
十一月十一日 佐賀縣下管轄關係警察（伊萬里、相知、各警察署）於伊萬里警察署
吉原支部長、井家上、兒玉、角口、麓、後藤各理事、高橋大伊萬里專務、互助會職員安西、熊川、早田出席、警察側より各署長、經濟主任、高等主任の臨席を仰ぎ、時局柄石炭界に關し種々懇談せり。

一、第二回支部理事會

十一月十日午前十二時半佐世保市萬松樓に於て肥前支部理事會開會、吉原支部長、井家上、兒玉各常任理事、角口、麓、後藤各理事、高橋大伊萬里專務、互助會側安西熊川、早田出席左記議案を審議せり。

第二回理事會議題

- 一、今後ノ炭況ニ關スル件
- 一、關係警察署ト懇談會開催ノ件
- 一、船腹問題ニ關スル件
- 一、引取滯滞ニ依ル貯炭解消對策ノ件
- 一、互助會裾物炭支那向輸出對策ノ件
- 一、仲買商（家庭浴場）共販ニ關スル件
- 一、支部互助會系炭共販並ニ共同貯炭場設置ニ關スル件
- 一、明年度鐵道納炭契約ニ關スル件
- 一、其他重要事項

互助會肥前支部第一回總會概要

日時 昭和十三年十月十一日午後一時

場所 佐世保市萬松樓

出席者 (順序不同)

大志佐、新元山、大伊万里炭礦	吉原梅吉	江里、新屋敷、波黒、唐津炭礦	後藤房三
大伊万里專務	高橋源三	山住炭礦	中橋篤二
新元山	松川彌平	立岩炭礦	福田荒市
小岩炭礦	兒玉幸吉	大志佐、瑞穂炭礦	佐田作一
皆瀬炭礦	有吉徳太郎	殿木炭礦	佐田榮次郎
向山、香燒炭礦	小岩信治	川釣炭礦	針尾軍一
牧崎炭礦	角口菊藏	岩谷、大里炭礦	小代新二
深江、深江二、牧岳炭礦	麓蘭吉	土肥ノ浦炭礦	末永仁五郎
上志佐炭礦	法師山孝義	福井炭礦	河内進
古賀、大黒炭礦	三崎仙治郎	麓炭礦	松島志米藏
	進野武雄	今福炭礦	林喜右衛門
		第二大岳炭礦	笹原嘉次郎
		互助會職員	佐々木武
			本山九州男
			安西豊

議事

(一) 役員選舉ニ關スル件

事務遂行上必要ノ爲十月七日開催ノ理事會ニ於テ互選ニ依リ推薦セル左記專任役員滿場一致ヲ以テ承認決定セリ

肥前支部長	吉原梅吉	熊川並雄
常任理事	井家上裕	早田利文
理事	兒玉幸吉	
	角口菊藏	
	麓蘭吉	
	有吉徳太郎	
	佐々木東	
	藤井伊藏	
	久恒貞雄	
	三崎友一	
(以上十名)	順序不同	

尙吉原氏ヨリ一身上ノ都合ニヨリ専心之ニ當リ得ザル場合ハ大伊万里炭礦株式會社專務取締役高橋源三氏ヲ代理者トナス事ヲ條件トシテ就任ノ旨申出アリ、次テ理事ヲ代表シ兒玉氏ヨリ就任ノ挨拶アリタリ

(一) 炭界ノ趨勢ト今後ノ炭況 並ニ支部統制根本問題

別頁ノ如ク安西社員ヨリ説明アリタリ

(一) 非加盟炭礦入會勸誘ニ關スル件

藤井鑛業後藤房三氏ヨリ今後會員各位ニ於テ現在未ダ入會ナキ非加盟炭礦入會勸誘方動議アリ滿場一致賛成ス

(一) 支部機能ニ關スル件

(イ) 會議ニ關スル件

理事會ハ毎月二十五日常例會議開催ニ決定、但シ理事會ノ費用ハ理事自辨トス

支部總會ハ適宜其ノ都度召集開催スルモノトス

但シ當分ノ間會員間ノ親睦懇親並ニ炭況對策協議ノ爲再三開催スルモノトス

(ロ) 炭質調査ノ件

林氏ヨリ、急ヲ要スル旨ヲ以テ即刻調査方徳瀝アリタ
ルモ之ガ調査ニハ事務所トシテモ至急着手スル方針ナ
リ

(六) 現販賣約定明細提出ノ件

支部業務ノ核心トナリ且又販賣標準値段段作製資料トナ
ルベキモノニ付キ正確眞實(現狀ノモノ)迅速ニ提出
スルモノトス、
九月分ヨリ提出ノコト、但シ用紙(形式)ハ事務所ヨ
リ配布スルコト

(二) 諸書類提出ノ件

山元貯炭旬報、現況調査資料、送炭報告等ノ諸書類提
出方ノ事務所側ノ申出通り承認アリタリ

(ホ) 商務委員會ニ關スル件

本會議ハ礦主並ニ販賣責任者ヲ以テス、尙委員任命ハ
各礦主ノ申出ニ理事會ノ承認ヲ要シ必ズ事務所ニ人名
登録セシモノニ限り且炭礦ノ生命タル販賣上ノ協議ニ
参加スルモノナル爲商務委員ニハ絶對權ヲ賦與スルモ
ノトス

尙之ガ活用成果ヲ揚ゲルハ炭質調査終了後ニシテ當分
過度的方法トシテ商談炭況ノ打合セ對策協議等ヲ爲ス
事トス

(一) 經理ニ關スル件

頭書ノ議題ニ這入ル前ニ吉原支部長並ニ角口理事ヨリ左
記動議アリタリ

吉原支部長

今回ノ炭價引下ニ際シ自己ノ炭礦ナ例ニ取リテ申上ケルト、今回
ノ契約更改期ニ際シ私が互助會ニ入會セシタメ炭價ノ取決メニ
非常ニ影響シ好結果ヲ齎シ得タル事ハ互助會ナルモノ、炭界ニ於
ケル地位ガ如何ニ認メラレ如何ニ大デアルカナ如實ニ示スモノニ
シテ、之ヨリ思惟シテ今日ノ互助會ノ確平タル地盤ヲ組織のナラ
シメタルニ如何ニ互助會ノ先賢亦ハ現會員ガ血ト汗ノ努力辛苦ヲ
以テ築キアゲタルヤハ想像以上ノモノアリ、然モ是等ノ努力ノ成
果ノ直接の受益ト言フ可キ恩典ニ最早浴セシ事ハ實ニ互助會入會
ニ依ル賜ニシテ斯ク見ル時多少經費ノ負擔ハ忍ブベキテ殊ニ本部
ノ幹部ガ支部會員ハ支部ニ必要ナ經費ノミ支辨スレバ可ナリトノ
申出ヲ考慮スル時其ノ恩惠ガ經費負擔ヨリ大ナル事ヲ考慮スレバ

大イニ支部ヲ利用シ支援シ共存共榮ノ實ヲ擧ゲルノガ吾々ノ今後
ノ生キル道デハアルマイカ、殊ニ支部經費ノ算定ノ基礎タル可キ
現在ノ實送數量ヲ以テシテハ通常經費支辨ニ支障ヲ來ス現狀ナル
故セメテ一ヶ月五萬屯ノ數量ニナル迄各礦ニ於テ送炭數量ヲ自發
的ニ増加セシメ以テ支部財政ノ基礎ヲ作ラレ度シ

角口理事

私ハ入會ノ辭トシテ愚惑ヲ述ベサセテ戴キマス。
近年社會ノ急進轉ニ伴ヒ世想ハ歲月ト共ニ推移シマシテ其停止ス
ル所ヲ計リ知ラレマセヌガ特ニ吾々ノ生活上ニ判然ト現ハレテ來
テ居ル世態ニ過去ニ於テ自分一軒ノミノ商賣ノ存在ヲ基礎トシテ
世渡リヲシテ來タ様ナ考ハ歐洲大戰ノ劃期トシテ著シク一變シタ
ノデアリマス。各種ノ事業商賣ガ米屋ハ米屋、炭屋ハ炭屋テ自分
一箇一軒ノ商賣テハ世態ノ變遷ニヨリ遣ツテ行ケムト言フ現象ニ
推移シ其存立チ自分ノ經濟ニ共存共通スル同業者同志ノ心的結合
ト物の即チ經濟的ノ連繫ニヨリ以テ自己消長ノ基準ノ輪廓ヲ大キ
クシテ共存共榮ノ基礎ヲラシメネバナラヌト言フ團體的行動ニ推
移スル様ニナツタ。大戰後何々同業組合、何々産業組合ト言フ團
體ガ數限リモナク作ラレマシテ米屋ハ米屋、炭屋ハ炭屋同志ノ同

業團體ヲ形成シマシテ自己存立ノ防壁陣ヲ張り其發達ノ顯著ナル
事實ニ隔世ノ感アル次第デアリマス。然ルニ我が國礦業社會ニ於
キマシテ其内テ特ニ我が松浦炭田地帯ノ吾々事業人ガ此ノ時運ニ
立後レナシテハ居リマスマイカ、自坑ハ自坑、他坑ハ他坑トデモ
言ツタ様ノ獨自の舊弊ノ餘波ガ今ニ殘ツテ居ル感ヲ深クスルモノ
デアリマス。同心協力共ニ打ツテ一丸トナツテ共存共榮ヲ實際ニ
計劃サレタ例ヲ嘗テ見タ事ガナイ様デアリマス。明治、大正、昭
和ヲ通ツテ永キ歲月ノ間ニ礦業會等ノ名ノ付ク様ナ者ガ幾回カ作
ラレ、ソシテ其レガ何時シカ立チ消エトナリツ、今日ニ及ンデ居
ルノデアリマスガ、何故ニ存續シナイカト申シマスト其基礎ガオ
互ニ共通ズル經濟連繫ニ欠ケテ居ル唯ダ單ナル親睦會ノ様ナ交
際機關ニノミ止マツテ居タカラデハ無イデセウカ。現北松礦業會
ニシテモ其範ヲ脫セズ其事業ノ中勞務關係ノ連絡ト形式的ノ技術
研究會位ノ事ヲ除ケバ其レ以外ニ共存共榮ノ骨子タルベキ經濟ヲ
意味スル連繫ナキ事ハ前者同様デアリマシテ之レガ即チ緊張味ヲ
欠ケ原因デアリ、或ル炭坑ノ人ノ說ニ僅カ應ニ三厘ノ會費デモ年
ニハ壹千圓ニ近キ會費負擔トナルガ、會ノ事業トシテ餘リ目スベ
キモノモ無ク年二回ノ懇親會ヲスル位ノ事デアレバ其都度百圓出
シノ宴會デモシテハ如何ト言フ様ナ話モ耳ニスル次第ア此說ノ如

ク共榮的ノ血液ノ通ハザル會合ニ對シテハ應ニ三厘ノ會費ヲモ高價ノ會費ト考ヘラレル事ヲ思ヒマス。私ハ筑前精屋ノ事業ニ關係ヲ持ツテ居タ關係上石炭礦業互助會ノ事業ニ就テハ以前ヨリ深ク感ズル點ガアリマシタ。今支那事變ニ對シ我政府ガ長期對策ヲ講ズルニ當リ物資ノ統制、政策遂行ニ就テ石炭界モ甚大ナル影響ヲ蒙ルニ立チ到リマシタガ石炭ノ統制ハ最モ至難トサレ政府モ深重ノ態度ヲ取ラレ箇々ノ事業ニ就テ統制ヲ行フ事ハ不可能ニ近イ事ヲ察セラレ、團體ヲ相手トシテ統制ノ目的ヲ達スベク企圖セラレ、ソシテ彼ノ昭和本位ニ方策ヲ講セラレ傾キアルノ時、石炭礦業互助會ガ野上會長ヲ始メ幹部會員諸氏ガ此ノ政策對處ノ猛運動ニ萬有レ犧牲ト甚大ナル努力ヲ拂ハレ吾々中小礦山ノ生キル道ニ邁進セラレタル功績空シカラズ政府當局ニ中小礦業ノ眞姿ヲ深ク認識附ケラレタル結果今日茲ニ中小礦山ガ生キ得ル道ヲ開拓セラレタノデアリマス。之レ即チ共存共榮團體ノ行動ノ成果ヲ有リマシテ吾々事業人ガ如何ニ經濟的ニ救ハレタカト言フ事ハ茲ニ御互ノ榮エテ希ハネバナラナイト存ズルノデアリマス。僅カ三厘ノ支出ニテモ得ル所尠ナケレバ高價トナリ、例ヘ三錢、五錢ヲ拂フ共其所ニ事業繁榮ノ素因アラバ安價ヲ會費トシテ喜ンテ據出スベキデアルト思フノデアリマス。牢固タル基礎ノ上ニ體制完備シタ

ル互助會ニ入會シテ共榮的指導ヲ受ケル事ヲ感謝スル次第デアリマス。卒直ニ愚言ヲ述ベマシテ禮ヲ欠ギマシタ事ヲ御詫ビ致シマス。

(イ) 創設費用ノ件

前理事會ニ於テ決定ノ金貳千圓也ハ豫算ノ相違並ニ諸物價ノ昂騰ノ爲不足ニシテ尙壹千圓追加ヲ要スル爲之ガ計算千圓也ノ捻出方ヲ諮リタル處各會員ハ別表(第一表)ノ送炭申出數量ニ基キ八、九月二ヶ月分ヲ噸當リ金參錢宛ノ據出ヲナシ之ヲ以テ創設費用ニ充テル事ニ決定ス、尙右創設費用徵收方法トシテ八月分ハ十月分會費ト同時ニ、九月分ハ十一月分會費ト同時ニ之ヲ徵收スル事ニ決定セリ

(ロ) 基金據出申出ニ關スル件

吉原支部長ヨリ創設費並ニ事務所ノ設立ヲ見タルハ各會員ノ御協力ノ賜ニシテ感激ニ堪ヘズ、尙益々之ガ活用成果ヲ舉ゲル爲ニハ種々ノ經費ヲ必要トスルヲ以テ此際各位ノ自發的ノ寄附金ヲ仰ギ以テ基金トナシ不時ノ用ニ供シ支部ノ萬全ヲ期シ度シトノ動議アリタル處

(一) 事務所設定ノ件

(イ) 家屋ノ賃借ニ關スル件

住所 佐世保市松浦町七十四番地

家賃 一金六拾七圓也

(ロ) 電話架設ニ關スル件

前理事會ニ於テ電話購入ニ關シテハ兒玉常任理事ニ一任中ノ處一金八百圓也ヲ以テ賣買契約成立ノ旨報告アリタリ、電話番號ハ(佐世保四七〇八番)

(ハ) 營業用什器購入ニ關スル件

兒玉常任理事一任

(二) 事務員雇傭ノ件

(イ) 雇傭人員數

本部職員 安西豊外ニ

男子事務員 三名

女タイピスト兼事務員 一名

女中並ニ給仕 一名

前記職員三名ノ内本部職員早田利文轉任ト決定、

滿場一致賛成アリ、逐次申出ヲ募リタル處別表(第二表)ノ如ク金五千七百圓也ノ基金ヲ得タリ尙缺席會員ハ各位並ニ事務所側ヨリ刻々此ノ主旨ヲ徹底セシメ應分ノ寄附ヲ仰グモノトス
追而基金拂込ハ十二月分會費徵收ト同時ニ之ヲ行フ事ニ決定ス
(ハ) 通常經費ニ關スル件
通常經費ハ月額約壹千五百圓也ヲ想定シ送炭數量(坑所ヲ離レンシ噸數)ニ噸當リ金參錢ヲ以テ會費トシテ徵收スル事ニ決定ス
(ニ) 支部經費捻出ノ件
支部經費ハ會費ヲ以テ之ニ充ツ、但シ當分ノ間送炭高不明ニ付各會員申出ニ依ル別表(第一表)ノ送炭數量表ニテ十月分ヨリ噸當リ金參錢宛徵收スルコトニ決定尙不足分ハ寄附金ニ依ル
(ホ) 會計監査ニ關スル件
毎月末ノ收支ヲ翌五日迄ニ常任理事監査ノ上調印スルモノトス

他ニ小使並ニ番人トシテ老夫婦ヲ雇傭スル事トス

(ロ) 待遇ニ關スル件

理事一任ト決定

(一) 本部幹部滿洲、北支、中支慰問歸

朝日ヲ期シ歡迎會開催ノ件

頭書ノ件ニ關シ吉原支部長ヨリ長崎ニ於テ開催ノ旨諮リタル處法師山氏ヨリ佐世保在住ノ會員多キ事トテ本部幹部ノ都合宜敷ケレバ佐世保公會堂ニ於テ視察狀況ヲ拜聽今後ノ參考ニ資シ度ク其後歡迎會ヲ萬松樓ニ於テ開催シテハ如何トノ提案アリ、一致賛成アリタルモ在支幹部ト打合せスルコトトシ結局之ガ不可能ノ場合ハ長崎へ委員ヲ募リ出迎ナス事トシ出迎歡迎委員ハ理事一任(希望者ハ隨時申出アリタシ)ト決定セリ

(二) 一般事項

(イ) 警察新聞記者招待ノ件

支部長ヨリ之ガ招待ノ要アリト諮リタル處廿五日ノ理事會ニ於テ日取りヲ決定スルコトトス

尙招待ノ際ハ打合事項アルコトトテ商務委員會ト總會ヲ兼テ爲ス事トシ變更アレバ通知スル事トス

(一) 佐賀、長崎兩縣廳訪問挨拶ノ件

理事一任ト決定

斯クテ午後六時三十分閉會ス。

(別表第一、第二ハ省略)

◎炭界ノ趨勢ト今後ノ炭況並ニ支部統制根本問題

安 西 豊

吾國ノ炭礦事業ガ自由主義ヲ基調トスル資本主義經濟機構ノ培養土ノ中ニ世界大戰ニ因リ、一大躍進ト相俟ツテ發達セル爲現下ノ經濟組織自体ハ資本主義ノ極致ヲ招來シ之ヲ炭界ヨリ見レバ一、二ノ資本家ガ炭界全部ヲ支配シ之ニ對應ノ態度ニ出ル者アレバ資本ノ優越性ヲ以テ壓倒的強制ヲナシ小炭礦ノ主張ハ何等ノ價值モ認メラレナカツタト云フ傾向ガ全面的ナル現狀ナリシモ資本、採掘條件等ノ物的要素ト人的要素ノ優秀ナル大手筋ノ下ニ物的、人的諸要素ガ第二義的立場ニアル中山炭礦ガ封建制度的ニ包括サレ居ル現象ヲ何時迄モ持續シ居ルト云フ事自体ハ經濟現象ノ好轉的ノ場合ニ於テモ大手筋以外ハ全面的ニハ其ノ恩典ニ均霑シ

得ズ、一度惡轉シ不況難局ニ直面センカ中小炭礦業ノ特殊性ガ加

速度的ニ危機へ輾轉セシメタルコトハ過去幾多ノ先輩ノ生々シキ實例ノ證左スル處ニシテ之ガ悲境ノ推移ヲ放棄スル事ハ中小炭礦業者全滅ノ危機ヲ決定シテシムルモノデアル。此ノ苦境打開、經濟困難克服ハ一ニ中小炭礦業者ノ大同團結ニ依リテ最後ノ一線タル生活權ノ確保ヲナス外他ニ方策ハ見出セナイノデアル。茲ニ團結ヲ意識シ業者自ラ相寄ル機運ノ濃化ヲ容易ナラシメ此ノ潜在意識ガ互助會ノ誕生ヲ意義付ケ且力強キ結實具體化ニ迄波及シタノデアル。斯クシテ大手筋タル筑豊石炭礦業會ニ包括サレ居リシ互助會ノ前身ハ茲ニ火ノ如キ團結心ヲ以テ敢然獨立、中小炭礦擁護ノ爲立上ツタノデアル。

然ルニ往々互助會ヲ稱シ過去ニ於テ過激行爲ノ團體ノ如キ觀察ヲ抱ク者アルモ互助會ノ功罪史ソレ自体ハ現在ノ互助會迄整備スル爲ノ過程トシテ彼ノ最近ニ政界ニ起リシ革新行爲ニ其ノ例ヲ見ルガ如ク最初ノ段階トシテ資本主義ノ極致最優勢ヲ誇ル大手筋ニ對シ鞏固ナル決心ト努力トガ中小炭礦生活擁護ト言フ最後ノ一線確保ニ對シテ而ラシメタ不可避的手段ト結果ニ過ギズ、換言スレバ現在ノ互助會ニ到達スル迄ノ過程トシテノ最小限度ノ犠牲トシテ容認セザルヲ得ズ互助會ナルモノノ生誕ノ爲陣痛ニ對スル努力ニ

外ナラヌモノデアル。

斯ク外部的ニ強硬態度ヲ保持セシ互助會モ會員内部ニ於テハ春風駘蕩一面宗教的觀念ニヨル依賴心迄醸成スルニ至レリ。例へば時ニヨル幹部ノ專斷モ中小炭礦擁護ノ觀點ヨリ善處セシ結果ト全面的ニ思惟シ何等異議ノ申立ヲ爲ス者モナキ程互助會精神ヲ全會員一致抱キ居ル現狀デアル。

惟フニ中小炭礦ガ殆ンド薄層殘炭ヲ技術的經濟的不利ノ條件ノ下ニ於テ稼行シ居ル現狀ニ對シ互助會トシテハ之ガ資本主義ノ壓力ノ下ニ根本ヨリ倒壞ヲ見ル時ハ國家ノ持ツ富源ハ永久ニ死滅ノ止ムナキニ至ル實狀ヲ叫ビ之ガ過去ノ自治生産統制ニ及ビ大手筋ヲシテ生産過剩炭ヲ統制制限シ炭界ノ維持ヲ爲シ來リタルモ尙生産統制ノミニテハ經濟界ノ異常ナル推移ニ對處スルニハ尙足ラザル爲之ガ販賣統制ニヨリ力強キ炭界ノ處理ヲ爲サントシ昭和石炭ノ誕生ヲ促シ之ガ設立ヲ見タリ。然ルニ炭況ハ極度ニ不況ノ一途ヲ辿リ來リタル爲互助會ハ吾々中小炭礦ノ石炭ハ吾々ノ手ニテトノ主旨ノ下ニ販賣統制機關ヲ自ラ設立シ之ニ當ル事トシ互助會石炭株式會社ナルモノガ誕生シタノデアル。

之レ有ルガ爲今回ノ炭界ノ動搖並ニ變動ニ對シ何等ノ不安ナク中小炭礦自体ノ生活線確保ガ完全ニ爲サレツツアル事ハ誕生以來未ダ

日淺キ互助會石炭株式會社ノ販賣統制ノ宜敷キヲ得タ結果ナリ。
斯クテ互助會ハ完全ニ生産、販賣兩部門ノ統制ヲ強化シ業界安定
ノ爲ニ磐石千鈞ノ重ミヲ加ヘタルモノニシテ其ノ使命ト意義ヲ更
ニ深化スルモノデアアル。

斯ル時ニ肥前支部發會ヲ見タルハ互助會トシテハ眞ニ中小炭礦ノ
力強キ擴大強化トナリタルモノニシテ支部トシテハ之ガ延長トシ
テ今後緊密ナル連絡ヲ保持シ同一步調ヲ以テ積極的ニ炭界ヘ進出
シ會員間ノ萬全ヲ期サレタシ

次ニ現下ノ炭況ニ關シテアルガ彙ニ互助會武内事務ヨリ發會式
席上ニ於テ需給ノ「バランス」ニ關シ種々説明アリタルモノ之ヲ補
足スレバ現下ノ炭價引下不安、鹽田、電力會社ノ天候的人爲的影響
響其他ノ經濟的諸條件等ニ依リ或程度ノダブツキノ客觀的狀勢下
ニ於テ引取滯滯ノ爲肥前地方ニ於テハ各礦投資ノ氣味アリ、十月
ノ需要期ニ入り尙斯ル不正常的ナル引取滯滯ノ經路ヲ辿ルハ需要
家側ノ思惑モアリ且政府ノ今回ノ統制ノ眞ノ意味ノ一般ニ徹底セ
ザルニヨルモノトハ云ヘ茲ニ互助會肥前支部開設セラレタル上ハ
自治的ニ斯ル事態ノ防止並ニ救濟改善ニ積極的ニ乗り出シ以テ効
果的ナ成果ヲ揚グル可ク努力スル意思デアアル
且亦炭礦業ガ常ニ増産計畫ヲ企圖シ始メテ現在ノ數量ノ保持ガ可

能デアルト云フ現狀ヨリ思惟スレバ現下ノ國家ノ經濟統制ガ或程
度需要減ヲ招來スルト雖モ出炭減ガヨリ以上ノ數字ニ迄波及スル
事ヲ考察スル時本年ノ需要最盛期ニハ非常ナル需給ノ不均衡ノ招
來ハ火ヲ見ルヨリモ明瞭ニシテ茲ニ於テ政府ノ今回ノ炭價引下ニ
對シ世間往々ニシテ第二、第三次ノ引下ヲ強調スル者アルハ實情
ニ即セザル暴論ニ等シク主務官廳タル商工省ニ於テモ此ノ間ノ實
情ヲ重視セラレ居ル今日吾々炭礦業者ハ何等不安ノ材料ヲ見出シ
得ス此ノ事情ヲ眞ニ理解自重シ諸物價統制等ニヨル物の不足ハ精
神力ニテ克服シ益々礦業報國燃料國策ニ順應シ全會員一體トナリ
新事態ニ對應シ最善ノ努力ヲ拂ハレ度シ。



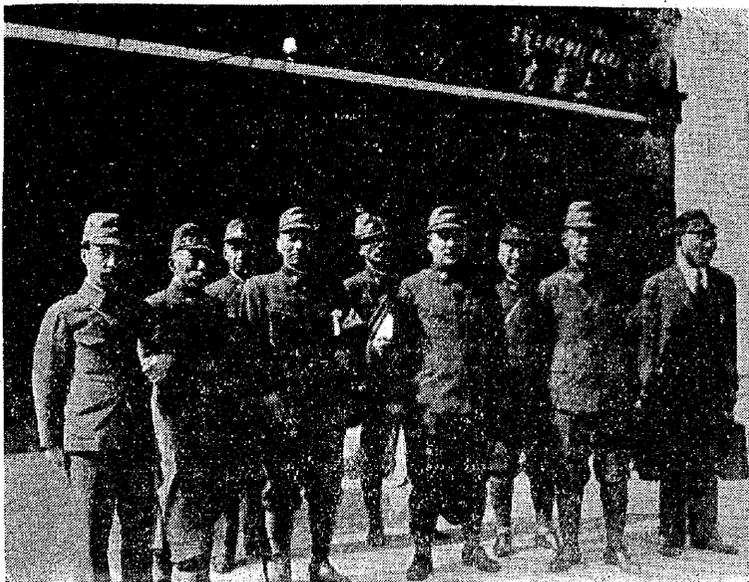
本會新入會員紹介 (八月號ヨリ續ク)

(昭和十三年十一月十五日現在)

入會月日	炭坑名	所在地	礦業權者又ハ代理人
昭和十三年八月十四日	芳ノ谷炭坑	嘉穗郡穎田村鹿毛馬	荒牧健造
同 八月廿四日	大黒炭坑	嘉穗郡稻葉村山野一五〇三	黒川尙夫
同 九月一日	岩鼻炭坑	田川郡川崎村大字池尻	北代市治
同 九月五日	梅壽炭坑	鞍手郡西川村字永谷	山本信夫
同 九月九日	高田鑛業所	糟屋郡篠栗町	筑豊合同炭礦株式會社
同 九月十日	古賀炭坑	長崎縣北高來郡古賀村	三崎友一
同 九月十日	大黒炭坑	佐賀縣西松浦郡黒川村	同
同 九月十二日	久恒柳ヶ谷炭坑	嘉穗郡大隈町	久恒鑛業株式會社
同 十一月十日	新潤野炭坑	飯塚市外潤野	九州合同炭礦株式會社
同 十一月十日	久恒小正炭坑	嘉穗郡穗波村	久恒鑛業株式會社
同 十一月十一日	久恒桂川炭坑	嘉穗郡桂川村	同
同 十一月十一日	宮ノ浦炭坑	糟屋郡篠栗町大字篠栗	安武熊一

互助會皇軍慰問團歸朝

十月廿七日武漢三鎮陷落の佳き日上海丸で長崎着



本會の滿洲、北支の皇軍慰問團武内團長外二十名の一行は十月一日關釜連絡船德壽丸で出發以來約四週間に亘つて駐滿、北中支の第一線皇軍を慰問し約六七十部隊に慰問の金品を贈呈し隨伴の博多演藝館爆笑餘興隊で第一線の將兵を爆笑攻めにし一方北滿に於ける牡丹江附近の炭坑を調査し撫順炭坑を視察し北支に於ては大同、井陘の大炭坑を坑内外に亘つて詳細に調査する等多大な收穫に大きな慰安の實を擧げて橋上氏が青島、角銅氏が上海より急用のため飛行機で單獨歸來の外團員一同は二十七日午後一時長崎入港の上海丸で日焼のした元氣な顔で歸朝した。

この日本部からは野上會長初め風戸主事鍋島、才津原、安西、熊川の各職員、會員肥前支部幹部、團員の家族等百餘名埠頭に出迎へ、團員一行は上海丸を背景にして各新聞社のカメラに収まり、直ちに十數臺の自動車に分乘して、

肥前支部主催の精洋亭に於ける歡迎會に臨み、兒玉肥前支部理事は主催者を代表して歡迎慰勞の挨拶をなし野上會長は會員を代表して慰問團一行の長途の勞を慰め肥前支部の手厚き歡迎會に感謝の挨拶を述べたるに對し武内團長は

今回互助會二十萬の従業員家族の意を休し皇軍慰問も最善の努力を捧げて來ました、又滿洲及北支炭田に對しても大いに認識を新にして來ました、詳しいことは機關を通じて報告しますが吾々石炭鑛業家の責務の愈々重大なることを深く肝銘して來ました。

と力強い答辭を述べ萬歳を三唱して團を解散出迎へた野上會長を始め會員家族に圍繞されて午後二時四十分長崎驛發急行にて歸路についたが、車中では團員一行長途の旅の疲れも物かは滿洲、北支に於けるゴシップ種や濟南附近で敗殘兵の匪賊に襲撃された話等に花が咲き、佐賀驛からは相談役中島德松氏一行が乗車せられて一層賑かになつた。

一方互助會本部職員一同は、皇軍慰問團凱旋を迎ふ可く自動車に分乘して折尾驛に向ふ、

七時二十分出迎團折尾驛に到着、見れば驛前はゴツクか

へす人の波、別府炭坑始め、各關係者の出迎へに面喰つた此方は、近所の家からテーブルを借り出して俄受付所を設置する始末である、

時にけたたましく響くサイレンは武漢三鎮完全攻略を傳へた、直ちに本會庶務吉賀氏の發聲で皇軍大捷萬歳を天にも届けと叫べば、驛前商店の人々も駆け出て、これに和し折尾驛前は時々なぬ大歡呼の坩堝と化した。

時刻は迫つて人々はプラットホームに流れこむ、さしもに廣いホームも、すつかり人に埋まつてしまつた。

新聞社の寫眞班も待機してゐる中に、愈々急行列車はホームに滑りこむ、

萬歳々々、暫らくは耳も聳する歡呼、真先に武内團長の堂々たる姿が見える、續いて外の團員一同元氣に降り立ち此處に全員無事に歸着、左腕に巻いた腕章もすつかり黒ずんで、長途の旅の勞苦を物語るものがある、記念撮影終つて驛に出れば、こゝは先刻にも増して人又人、全く身動きも出来ない、

やがて團員は用意の自動車に分乘、久方ぶりに懐しい我

家へ向つた、
 縣道を通つて藤木町に入れば、各家の軒に赤い提灯が吊
 され、戦勝を壽いでゐるが、又團員一行の無事歸還を迎へ
 るやうにも思はれた、

折からチャン／＼と號外の鈴、
 武漢陥落せり、慰問團歸還せり、
 (十月二十七日夜記 T・H生)

福岡市渡邊通

九州水力電気株式会社

石炭鑛業權設定

自昭和十三年六月十日
 至昭和十三年九月七日

福岡鑛山監督局

登録番號	鑛區所在地	面積	鑛業權者住所氏名
福岡 六七七	企救郡松ヶ江村地先海面京都郡今元村地先海面築上郡八津田村地先海面	一、〇〇〇、〇〇〇	井上 貞一
長崎 四五一	東彼杵郡江上村崎針尾村並ニ海面	五五、五〇〇	朝鮮鑛山株式會社
鹿兒島 三六一	薩摩郡里村並ニ海面	九七、二〇〇	高須重彦外一人
福岡 六七〇	京都郡今元村地先海面同袋島村地先海面	九八、二〇〇	井上 貞一
同 六七四	同上	六三、七〇〇	同上
同 六七三	同上	同上	同上
同 六七二	同郡今元村地先海面	九五、〇〇〇	同上
山口 六七五	厚狹郡二俣瀬村	七六、〇〇〇	宇部市沖宇部
同 六七六	大津郡日置村	九一、〇〇〇	福岡市新大工町
佐賀 三六三	東松浦郡入野村並ニ海面	三七、三〇〇	佐賀市白山町
熊本 三八四	天草郡志岐村坂瀬川村富田町並ニ海面	九九、〇〇〇	大阪市東區北濱二丁目
鹿兒島 三六五	出水郡東長島村並ニ海面	九四、八〇〇	宇部市山串
福岡 六七四	筑紫郡大野村	五三、四〇〇	大阪府北河内郡三郷町
同 六七三	京都郡今元村仲津村並ニ海面	四一、三〇〇	直方市直方

同	三六六	同村並ニ海面	九八、〇〇〇	同上	同	上	同
福岡	六七七	三藩郡川口村久間田村大野島村佐賀縣佐賀郡大詫間村	九七、六〇〇	東京市中野區大和町	小泉安太郎	外一人	同
同	六七六	粕屋郡香椎村和白村	二六、〇〇〇	福岡縣粕屋郡志免村	天野秀次郎	外一人	同
佐賀	三三五	佐賀縣本庄村西川副村東興賀村	九六、〇〇〇	佐賀縣杵島郡武雄町	山口	峰	同
同	三三六	同郡東興賀村西興村嘉瀬並ニ海面	九六、〇〇〇	同上	小泉安太郎	同	同
同	三三七	同郡西興賀村地先海面杵島郡福富村地先海面	九六、〇〇〇	東京市中野區大和町	小泉安太郎	同	同
同	三三八	神崎郡千歲村城田村福岡縣三藩郡青木村	九六、八〇〇	同上	同上	同	同
同	三三九	佐賀縣東川副村福岡縣三藩郡三又村大川町	九六、三〇〇	同上	同上	同	同
長崎	三三〇	神崎郡千歲村三養基郡三川村福岡縣三藩郡城島町	九六、〇〇〇	同上	同上	同	同
福岡	六七七	北松浦郡紐差村地先海面	九六、〇〇〇	福岡市馬出	森松仁七郎	外一人	同
同	六七七	浮羽郡川會村水分村田主丸町	九六、〇〇〇	東京市小石川區高田老松町	岡商吉	同	同
鹿兒島	五六四	同郡水繩村竹野村川會村田主丸町	七五、〇〇〇	同上	同上	同	同
福岡	六七三	大島郡與論村並ニ海面隣	三六、九〇〇	東京市麴町區大手町二丁目	鈴木千代吉	外一人	同
同	六七三	嘉穗郡幸袋町二瀬町飯塚市	三六、〇〇〇	福岡縣田川郡上野村	辻村彌三郎	同	同
山口	四六三	直方市鞍手郡宮田町小竹町	一六、〇〇〇	東京市日本橋區濱町三丁目	島岡太三郎	同	同
熊本	三〇七	豊浦郡西市町豊田前村田下村	二〇、〇〇〇	下關市宮田町	岩尾三郎	同	同
沖繩	九六九	同郡當尾村豊野村	九六、〇〇〇	同上	同上	同	同
長崎	四〇八	八重山郡石垣村並ニ海面隣	一六、〇〇〇	東京市小石川區小日向台二丁目	芳野芳太郎	同	同
沖繩	九六八	東彼杵郡下波佐見村	四三、〇〇〇	佐世保市汐見町	富田保	同	同
沖繩	九六〇	宮古郡平良町隣	五七、〇〇〇	東京市日本橋區一丁目	渡邊一雄	同	同

長崎	五六三	西彼杵郡時津村	二〇、〇〇〇	佐世保市汐見町	富田保	外二人	同
福岡	六七七	遠賀郡岡垣村遠賀村	六四、〇〇〇	大阪府港區南市岡町二丁目	福岡礦業株式會社	同	同
同	六七七	八幡市	九〇、一〇〇	福岡市住吉築島	福田宗次郎	外一人	同
同	六七六	三池郡銀水村	九〇、〇〇〇	大阪府北區堂島濱通一丁目	三池炭業株式會社	同	同
同	六七七	宗像郡河東村	一一〇、〇〇〇	八幡市尾倉	芳川命照	外一人	同
山口	四六四	萩市	五七、〇〇〇	福岡縣若松市山手通三丁目	原田勤次郎	外二人	同
福岡	六七九	田川郡添田町川崎村	一〇〇、〇〇〇	大阪府東區北濱五丁目	住友礦業株式會社	同	同
佐賀	三三二	三養基郡三川村神崎郡城田村千歲村	九〇、二〇〇	東京市中區大和町	小泉安太郎	同	同
同	三三三	佐賀郡東興賀村並ニ海面西興賀地先海面嘉瀬村地先海面久保田地先海面	九一、〇〇〇	佐賀縣杵島郡武雄町	山口	峰	同
同	三三四	同郡鍋島村嘉瀬村	九七、〇〇〇	同上	同上	同	同
山口	四六七	下關市地先海面	三六、五〇〇	小倉市富野	藏内完	外一人	同
長崎	二四四	東臼杵門川町富島町	九六、五〇〇	福岡市飛石町一丁目	馬場新二	外一人	同
沖繩	九六	宮古郡平良町並ニ海面隣	八三、六〇〇	東京市日本橋區本町一丁目	渡邊一雄	外一人	同
佐賀	三三五	佐賀郡嘉瀬村佐賀市	八五、六〇〇	佐賀縣杵島郡武雄町	山口	峰	同
大分	三四七	大野郡長谷川村上緒方村	三九、五〇〇	小倉市鍛冶町	藏内次郎	兵衛外一人	同
長崎	四〇九	西彼杵郡崎戸町地先海面	四八、〇〇〇	東京市麴町區丸ノ内二丁目	九州炭礦汽船株式會社	同	同
佐賀	三三二	三養基三川村神崎郡城田村千歲村	九〇、三〇〇	東京市中野區大和町	小泉安太郎	同	同
同	三三三	佐賀郡東興賀村並ニ海面西興賀村地先海面	九一、〇〇〇	佐賀縣杵島郡武雄町	山口	峰	同
同	三三三	嘉瀬村地先海面久保田地先海面	九一、〇〇〇	同上	同上	同	同
同	三三三	同郡鍋島村嘉瀬村	九六、七〇〇	同上	同上	同	同
山口	四六七	下關市地先海面	三六、一五〇	小倉市富野	藏内完	外一人	同

長崎	二四二	東臼杵郡門川町富島町	六六,000	福岡市飛石町一丁目	馬場新二外一人
沖繩	六二	宮古郡平良町並海面隣	八三,九〇〇	東京市日本橋區茅場町一丁目	渡邊一雄外一人
佐賀	三六五	佐賀郡嘉瀬村鍋島村佐賀市	八三,六〇〇	佐賀縣杵島郡武雄町	山口 峰
大分	三七七	大野郡長谷川村上繕方村	三〇,三〇〇	小倉市銀治町	藏内次郎兵衛
長崎	四九九	西彼杵郡崎戸町地先海面	四六,〇〇〇	東京市麴町區丸ノ内二丁目	九州炭礦汽船株式會社
同	四〇〇	同郡喜々北高來郡真浦山並ニ海面	九六,七〇〇	門司市大里の場町	三崎 友一
福岡	六八〇	遠賀郡遠賀村蘆屋町	五三,〇〇〇	東京市豊島區巢鴨町五丁目	鈴木 正夫
佐賀	三六六	藤津郡鹿島町濱町	九三,〇〇〇	福岡縣嘉穂郡大隈町	久恒貞雄外一人
同	三六七	杵島郡綿江村龍玉村	九三,四〇〇	同 上	
長崎	四〇一	北松浦郡上志佐村	九三,七〇〇	東京市麴町區丸ノ内二丁目	松浦炭礦株式會社
同	四〇二	西彼杵郡神浦村地先海面	九四,五〇〇	同市日本橋區室町二丁目	松島炭礦株式會社
同	四〇三	同郡松島村地先海面	九三,八〇〇	同 上	
山口	四六三	宇部市地先海面厚狹郡小野田地先海面	八四,五八六	宇部市小串	沖ノ山炭礦株式會社
同	四六四	宇部市地先海面	九〇,二〇〇	同市小串	瀬戸 軍一
鹿兒島	三二七	熊毛郡西之表町	九〇,〇〇〇	北海道夕張郡夕張町	築詰太次郎 外二人
山口	四六九	大津郡日置村菱海村	九四,三〇〇	唐津市唐津	石田 豊彦外一人
同	四七〇	豊浦郡西市町	九〇,〇〇〇	宇部市沖字部	山田 新松
同	四六三	厚狹郡高千帆町	八八,五〇〇	宇部市小串	山甲 順造
佐賀	三六八	佐賀郡本庄村北川副村西與賀村	九四,四〇〇	佐賀縣杵島郡武雄町	山口 峰
福岡	六八二	八幡市遠賀郡折尾町並ニ海面	九三,一〇〇	東京市芝區田村町一丁目	日産化學工業株式會社

熊本	三三〇	天草郡富岡町並ニ海面坂瀬川村地先海面	九四,一〇〇	大阪市東區北濱二丁目	靜 豐次郎
沖繩	九三三	志岐村地先海面	三三,〇〇〇	佐賀縣神埼郡神埼町	百田喜太郎 外一人
山口	四六三	重山郡竹富村	九三,三〇〇	東京市牛込區新小川町三丁目	東北金山株式會社
佐賀	三六九	豊浦郡西市町	九三,〇〇〇	東京市麴町區丸ノ内二丁目	東杵島炭礦株式會社
熊本	三三三	小城郡蘆刈村	一〇〇,〇〇〇	佐世保市上蔵園町	山田徳太郎 外一人
佐賀	三六一	天草郡本渡町龜場村楳守土村	一三,〇〇〇	福岡市東中州町	根 尾 勝 也
山口	四六五	佐賀縣久保泉村	二〇,六〇〇	宇部市沖字部	高藤啓介外五人
佐賀	三六二	宇部市地先海面	七〇,〇〇〇	佐世保市下京町	島谷倉壽外一人
同	三六三	東松浦郡呼子町ニ海面	一六,〇〇〇	東京市中野區大和町	小泉 安太郎
同	三六四	神埼郡神埼町城田村	一〇〇,〇〇〇	同 上	
同	三六五	佐賀縣新北林東川副村北川副村	五八,〇〇〇	佐世保市保立町	吉原梅吉外一人
長崎	四〇五	北松浦郡御厨村	七四,七〇〇	鞍手郡劍村	阿部 啓 外一人
佐賀	三六五	西松浦郡黒川村伊萬里町並ニ海面	一〇〇,〇〇〇	北松浦郡柚木村	吉尾丑之助 外一人
長崎	四〇六	北高來郡有喜村小栗村	九五,〇〇〇	小倉市銀治町	藏内次郎兵衛外一人
福岡	六八五	山門郡兩開村地先海面	八三,〇〇〇	田川郡後藤寺町	高光 小太郎
鹿兒島	三七六	出水郡東長島並ニ海面	九三,六〇〇	同 上	
同	三七七	同 上	九三,〇〇〇	同 上	
同	三七八	同 上	九三,〇〇〇	同 上	
福岡	六八六	三井郡北野町太刀洗村味坂村	九七,〇〇〇	佐賀縣藤津郡間村	山口 慶 八
同	六八七	山門郡大和村兩間村東富永村	九七,〇〇〇	東京市日本橋區室町二丁目	山門炭礦株式會社
佐賀	三六八	藤津郡大浦村並ニ海面	一〇〇,〇〇〇	佐賀縣小城市北多久村	吉 岡 通 隆

同	三九七	佐賀郡本庄村北川副村西與賀村鍋島村佐賀市	九六、〇〇〇	杵島郡武雄町	山口
同	三九六	佐賀郡大謨間村地先海面西川副村地先海面	七五、六〇〇	東京市中野區大和町	小泉安太郎
同	三九六	藤津郡七浦村地先海面夕長村地先海面	三三、〇〇〇	同上	
同	三九六	三養基郡三川村	九、〇〇〇	同上	
山口	三〇〇	同村上峰村神崎郡三田川村	七四、五〇〇	宇部市沖宇部	藤田勝人外人
熊本	三三三	宇部市地先海面	六六、〇〇〇	熊本縣天草郡一町田村	田中仙之助
福岡	六九八	天草郡一町田村富津村	七五、〇〇〇	飯塚市	立岩株式會社麻生商店
同	六九八	糸島郡雷山村波多江村怡土村	四七、九〇〇	同上	
同	六九八	福岡縣筑紫郡那珂村	一、〇〇〇、〇〇〇	直方市直方	大岡富太郎
同	六九八	筑城郡椎田町並ニ海面	八三、四三三	同上	
同	六九二	同郡八津田村地先海面椎田町地先海面	八二、八〇〇	同上	
同	六九二	同郡同村椎田町並ニ海面	九八、〇〇〇	佐賀縣杵島郡武雄町	山口
佐賀	三〇三	佐賀縣南川副村西川副村東與賀村	九八、二〇〇	同縣小城郡北多久村	東郷七造
同	三〇三	藤津郡大浦村並ニ海面	四七、〇〇〇	東京市麴町區丸ノ内二丁目	三菱鑛業株式會社
同	三〇三	東松浦郡北波多村西松浦郡大川村	七五、三〇〇	同市日本橋區室町二丁目	松島炭鑛株式會社
長崎	四〇六	西彼杵郡松島村並ニ海面	三七、七〇〇	飯塚市	立岩株式會社麻生商店
同	四〇六	北松浦郡小佐々村並ニ海面	九五、〇〇〇	名古屋市熱田區池内町	株式會社鈴木商店鑛業部
宮崎	二四九	南那珂郡都井村	九七、〇〇〇	直方市直方	野上辰之助
福岡	六九四	遠賀郡蘆屋町地先海面岡垣村地先海面	九〇、〇〇〇	東京市京橋區銀座三丁目	大濱炭鑛株式會社
山口	四九六	厚狹郡小野田町地先海面厚狹町海面	三三、〇〇〇	同上	
同	四九六	同郡小野田村地先海面、高千帆町地先海面			

福岡	六四四	小倉企救郡西谷村金銀銅硫化鐵	三〇、三〇〇	小倉市徳力	佐藤吉太郎 外三人
佐賀	三〇三	三養基郡南茂安村福岡縣三潯郡安武村	九五、〇〇〇	同市中野區大和町	小泉安太郎
長崎	四〇七	西彼杵郡崎戸町地先海面黒瀬村地先海面	九四、八〇〇	同市麴町區丸ノ内二丁目	九州炭礦汽船株式會社
鹿兒島	三七一	日置郡下伊集院村東市來町	三六、一〇〇	鹿兒島縣薩摩郡樋脇村	塚田三九外一人
山口	四九三	大津郡日置村	五八、九〇〇	福岡市新大工町	進一 治
佐賀	三〇六	西松浦波多津村南波多津村 松浦郡北波多村	七六、七〇〇	大阪市東區船越町一丁目	木村同旅株式會社
福岡	六七五	宇像郡津屋崎町並ニ海面	九八、〇〇〇	福岡縣筑紫郡日佐村	山根末吉
同	六七五	三井郡味坂村御原村小郡村佐賀縣三養基郡基里村	九六、六〇〇	佐賀縣藤津郡久間村	山口慶八
同	六七五	○太刀洗村御原村味坂村	八六、五〇〇	同上	
試掘鑛種名更正願許可					





炭界日誌

白 刃 生

十月十六日(日)晴

△製鐵所鵜澤技師長、大治鐵山の現地精鍊は石炭次第にて可能なりと發表す

十月十七日(月)晴

△京都石炭コークス同業組合臨時總會開催

△臺灣石炭坑瓦斯爆發して坑夫十三名死傷す

△本會相談役岡部喜藏氏逝去

十月十八日(火)晴

△日本發送電會社の所要炭四百萬噸と算定さる

△高松二坑に於て落盤あり、坑夫五名死傷す

十月十九日(水)曇

△三矢炭坑に於て落盤の爲坑夫一名死亡す

十月二十日(木)曇

△本月中旬に於ける石炭輸送は炭價引下及び配給統制の反響を受け豫想より減少す

十月二十一日(金)曇

△本社慰問團濟南着

十月二十二日(土)曇

△開鑿炭増産資金の調達見透しつゝ、

△本社慰問團青島着

十月二十三日(日)晴

△南樺太炭の輸入額、豫想を遙かに突破して百七十五萬噸確實となる

十月二十四日(月)晴

△内務、商工、陸軍海軍各省援助の下に刈田石炭港の擴張工事豫算決定(七百萬圓)

△本社慰問團上海着

十月二十五日(火)晴

△筑豊炭坑稼働者不法壓制事件頻發し、當局警告を發す

十月二十六日(水)晴

△若松合同石炭炭本事務、中平、松原兩常務、幸田監査役の四氏、東京に於て開催の全國石炭同業組合總會出席の爲出發す

十月二十七日(木)晴

△本社皇軍慰問團一行、本日正午上海丸にて長崎上陸、同日午後七時折尾歸着す

△全國石炭同業組合聯合會結成式舉行(於東京赤坂山王ホテル)

十月二十八日(金)曇

△北九州用水建設事務所長長久保氏、用水設計認可の件に關し急遽上京す

十月二十九日(土)雨後曇

△午後三時より博多一方亭に於て本社重役會理事會開
午後六時より同所にて四方田多賀昭和石炭新舊若松支店

長の歡送迎會を開く

△北海道石炭鑛業會評議員會

十月三十日(日)雨後曇

△若松石炭商同業組合第五回店員表彰式を毎日座に於て舉行、本會より野上會長代理として才津原出席

十月三十一日(月)曇

△日曹鑛業第三回定時株主總會

十一月一日(火)晴

△四方田昭和石炭若松支店長本社營業部長に榮轉、本日若松驛發赴任す

十一月二日(水)晴

△開平炭輸入増額に就き、日鐵交渉に乘出す

十一月三日(木)晴

△別府附近に於て炭層發見され、近く採炭に着手と發表する

十一月四日(金)晴

△日本鑛業、本日決算重役會を開き、年配當一割四分据置を決議、取締役四名増員の件と共に來る二十四日定時株

主總會に附議することに決定す

十一月五日(土)晴

△野上本會々長外武内専務、藤井、木曾、山本、西本各委員、据物炭の對支輸出許可等の要望に關し上京
△縣下鑛害地復舊に縣期成會では猛運動を試みる事となり、
勝野直方市長等上京す

十一月六日(日)晴

△京都郡に石炭試掘願續出す 同郡は筑豊炭田に隣接す

十一月七日(月)曇

△石炭配給統制協議會第二部會では、軍需用石炭の優先配給を行ふ事に決定す

△本會肥前支部創立挨拶の爲め吉原支部長外長崎縣廳訪問

十一月八日(火)晴

△九州坑本商組合創立の運びに至る

△石炭聯合會理事會を工業俱樂部に開催

物的人的資材の圓滑なる配給につき當局に陳情する事を決議す

十一月九日(水)晴

△筑豊鑛業會、若戸石炭積場の浚渫費計上方を縣當局に陳情す

△若松港貯炭高二十八萬噸に達す

十一月十日(木)晴

△過去に遡及鑛害の賠償法交化を強調して勝野直方市長歸任す

△本會肥前支部では佐世保警察署に、長崎縣下管轄關係警察懇談會を開催す。尙支部第二回理事會を同市萬松樓に開催

十一月十一日(金)曇時々雨

△本會肥前支部部長等創立挨拶の爲め佐賀縣廳訪問、尙伊万里富士見亭に佐賀縣下管轄關係警察懇談會を催す

△早良炭坑にガス爆發重輕傷者八名を出す

△滿鐵撫順液化工場は本日試掘運轉を爲す

十一月十二日(土)雨

△若松港石炭運賃商談困難となる

△若松炭商組合副組長辭任と決定

十一月十三日(日)晴

◇新屋敷炭坑に於て炭車脱線、坑夫一名死亡す

十一月十四日(月)晴時々曇

△互助會系筑豊炭掘物炭を年内十二萬噸。上海、青島に輸出に決定す

十一月十五日(火)曇

◇若松石炭商組合委員會、山本副組長辭任を正式に承認

後任は代議員會の推舉に待つ事を決す

◇若松重油規正組合評議員會を開き本社より才津原出席



互助會文藝

俳句

選者 琴月園雷鳴雲先生

課題 案山子。夜長。枝豆。鯨釣。

枝豆や湯氣立つ頃の塩加減
田子の笠横チヨ冠りの案山子かな
枝豆を持ち出す母やお八ツ時
日支戰夢繰り返す夜長かな
長き夜を謡に更ける翁同士

(響 洋)
(由起世)
(杉 堂)
(古 雀)
(清 風)

黙々と山田看護る案山子哉
遠目には誰かに似たる案山子哉
枝豆をあさりに出るや山兎
弓張つて銃後を護る案山子かな
長き夜や法話も終へて山の寺
鯨釣りや樂のし日曜親子連れ
シャツ一重案山子淋しく雨に立つ
軍服を案山子も着るや非常時
課題句を終へてゆとりの夜長かな
銃取りて小田の案山子も銃後守る

(響 洋)
(孤 愁)
(古 雀)
(杉 堂)
(清 風)
(由起世)
(操 女)
(由起世)
(響 洋)
(江 海)

闇の夜の案山子すいかす野邊路哉
月更けて枝豆を食ひつくしけり
鯨釣りや女もまじる日曜日
非常時や晝を夜長に繼足して
黙々と斜陽に立ちて破れ案山子
案山子老いて雀とむつふ稲の出来
枝豆に湯町の絃歌遠ざかる
鯨釣りや入江賑はず秋日和
夕風のうら淋しさを案山子吹く
月落ちて軒に風立つ夜長哉
馬草くふ牛馬いなく夜長哉
小波に小舟浮べて鯨を釣る
鯨釣りの風夕潮に對し立つ

佳句

おもやつれ國家に盡す案山子かな
疲れても弓矢ゆるめぬ案山子かな
肅然と雨の中なる案山子かな
枝豆の唇る月の光にふれ
長き夜の犬遠吠へや夜泣きそば
くづまりて風の陽面に鯨を釣る
銃後護る殘業詠びて夜長哉
句むしろや枝豆茹で、饗しけり
身のしんくもの言ひたげな案山子かな

(白 双)
(古 雀)
(杉 堂)
(杉 堂)
(江 瀨)
(杉 堂)
(操 女)
(白 双)
(響 洋)
(江 瀨)
(古 雀)
(千草嬢)
(操 女)

夕靨鯨釣る竿は陽を返へす
風雨に堪へ千町田守る案山子哉
鯨釣りやなくて漁灯を見て戻り
鯨釣りや小舟賑ふ風日和
右府公のかんしやく玉や夜の長き
夜の案山子灯一つ遠くあり
貧農の長き夜操る藪車
長き夜や隣りもいまは紡む糸
眼の澄んで復執筆の夜長かな
涯高く鯨釣る竿に陽は斜め
枝豆のお八ツを子等は嬉しがり

拾内

満潮に鯨の見釣りや興つきず
寝返りを打つや夜長の夢をゝる
よい月に枝豆味覺ほしいま、
傾けど案山子は弓をゆるめざる
夕映の満潮に鯨よく釣れる
鯨釣りや夕陽まばゆき浪かしら
枝豆を片荷に持てる花賣女
釣それし鯨走り行く水輪かな
鐵かぶと冠つたのもある案山子哉
學童の石礫する案山子哉

五客

(江 瀨)
(千草嬢)
(古 雀)
(孤 愁)
(杉 堂)
(操 女)
(江 瀨)
(由起世)
(響 洋)
(歌摩呂)
(操 女)
(白 双)
(杉 堂)
(響 洋)
(由起世)
(操 女)
(杉 堂)
(響 洋)

夕榮へや案山子の下のこぼれ糶
長き夜を打ち明したる筑碁哉
底潮に鯨釣る糸や纏れ合ふ
釣落す大鯨水輪殘し去る
長き夜や寢酒も覺めて夜半の鐘

人

銃後護る家や夜長の手内職

地

枝豆のむく手も白ぎ指ほろし

天

事變記の讀書に更けし夜長哉

選者加吟

夕靨満潮に鯨能く釣れる
鯨釣るや海峽風ぎて海平ら
枝豆や馳走に發句す月の歌
枝豆の味覺や月も見頃哉
敗蔭は案山子に似たる末路哉
造り人にそつくり似たる案山子哉
長き夜の寢覺の友や鳴くちゝろ
長き夜や銃後を護る座談會

雷鳴雲

(由起世)

川柳

選者 琴月園雷鳴雲先生

課題

ネクタイ。停留所

ネクタイを大辻司郎茶目て居る
エンタツは赤ネクタイで笑はせる
停留所ハズを待つのかボス待つか
停留所迄で見送るは深い仲
田舎者下りそこねたる停留所
いゝ年で赤ネクタイ縞クボン
相惚れにネクタイ貰ひ恥かしい
停留所遺物を探す人だから
走り来て電車呼んでる停留所
ネクタイを横テヨにまけて干鳥足
半賃の客が占めて居る停留所
停留所車掌カバンの口を閉め
朝夕を停留所で顔つなぎ
手拭でネクタイ結ぶ稽古かな
ラケットを振ってネクタイ跳躍し
場所違ひ待つに肩こる停留所
デパートのネクタイスフと本絹あり

(由起世)
(一 雷)
(白 双)
(由起世)
(香 月)
(響 洋)
(吞 空)
(千草嬢)
(歌摩呂)
(古 雀)
(由起世)
(響 洋)
(千草嬢)
(孤 愁)
(千草嬢)
(響 洋)
(由起世)
(古 雀)
(歌摩呂)
(千草嬢)
(吞 空)
(響 洋)
(香 月)
(由起世)
(一 雷)
(白 双)

佳句

ネクタイの結びまごづく新博士
御土産を坊や出迎ふ停留所
停留所車掌幼児を貨物にし
乗り過ぎた客あはて出す停留所
ネクタイの色も互のラヴシン
いゝ年に活辯赤いネクタイ
後先に來ても心は停留所
二次會はネクタイなんかメンクサイ
ネクタイが見合の娘の御氣にめし
停留所老いや別嬪ゆづりのせ
ネクタイを押さへて軽い咳一つ
折襟でネクタイ不要と云ふ時節
一階から知人をまねく停留所
停留所やたらにベルが鳴つてゐる
停留所午前と午後と二度出合ひ
愛犬を停留所で追ひ返し
いそがしい立小便の停留所
乗りをくれ舌打ち一つ停留所
終電車出た停留所明る過ぎ

(呑空)
(香月)
(呑空)
(香月)
(由起世)
(一雷)
(響洋)
(由起世)
(歌麻呂)
(香月)
(孤愁)
(呑空)
(由紀世)
(一雷)
(響洋)
(由起世)
(呑空)

天

酔ばらい駄々こねてゐる停留所
來た／＼と孫の手を取る停留所
ネクタイの柄で人柄きめて居る
赤ネクタイ御國訛りでさとが知れ
ネクタイを忘れりやマダム太てい顔
ネクタイが少し曲つて酒臭い
約束の人を出て見る停留所
ネクタイでどつと笑はずチャップリン

五客

ネクタイの派手に成つたと妻は妬け
ネクタイを結ぶもどかし村長殿
男女同士終電待つはやゝこしい
角力はねてどつと押寄す停留所
半賃や押すな押すな停留所
ネクタイイヤまかえを二本さし
モボとモガネクタイなでてラヴストリー

(香月)
(古雀)
(響洋)
(一雷)
(呑空)
(由起世)
(白双)
(呑空)
(由起世)
(一雷)
(古雀)
(一雷)
(歌麻呂)
(香月)
(一雷)
(由起世)
(呑空)
雷鳴雲

拾内

ネクタイも今非常時とスフにかへ
停留所田舎婆あわウウロ迂路
スフネクタイ月賦の服が泣いてゐる
いゝチップ停留所迄御見送り
非常時はネクタイなしの改良服
かけおちの見張る停車場停留所
ネクタイのタイヤを親爺氣に掛ける
赤ネクタイ白粉付けて居る男
停留所下りはマードありますか
交通網メールカーは許される
停留所停電ですか混んで居る

和歌

選者 三輪則一氏

課題 秋の歌(晩秋)寫真(うつしえ)

平調

秋もはや深やまたにの紅葉狩
かへさは栗もあまた拾ひぬ
學びわざをへしかたみの寫眞は
いくとせふるもなつかしきかな
老いませし母の寫眞ながめつゝ
なみだをこぼす年となりけり
山も田も霧たちこめて見えわかぬ
あかとき早く百舌鳥のなくなり

(白双)
(白双)
(由紀世)
(白双)
(響洋)

佳調

心合ひの友とうつりしうつしゑを
またとりいでゝなつかしみ見る
かけ膳を供へて武運いのるなり
軍にいでし夫のうつしゑ
秋さくら散る夕ぐれは故郷戀し
はゝの病はいかになりしか
くりかへしゝてもながめけり
幼きときのうつしゑのかけ

(由紀世)
(由紀世)
(孤愁)
(孤愁)
(響洋)
(和才角三)
(江瀨)
(歌麻呂)

秀調

漢口の入城式のうつしゑに
みたみ我等の胸ぞ高鳴る
うつしゑを見れば幼き思ひ出の
心のおくにうかぶたのしき

(響洋)

人

亡き父のうつしゑかざり朝夕に
みあかしあぐる子らのかなしさ
今はなき父とも知らでうつしゑに
たはぶれ笑ふち子のあはれさ

(千草)

地

柿あかくうれたるが見ゆ山里の
わらやの軒をなかばかくして

(白刃)

天

みいくさに背はめされけむ賤の女の
一人山里におしねかる見ゆ

(和才角三)

本月は俗用に追はれて追詠をよむの違なかりしを憾む乞怨

(三輪生)

支那事變

百人一首

◇爆音に飛び出で、見ればうらたへぬ
驚の上より弾丸は降りつゝ
◇奥山に逃れこみゐて泣く支那の
聲聞く時ぞ赤は口惜しき
◇天の原ふりさけ見れば微かなる
敵機の高さ二萬尺かも
◇我庵は都を遠く西の方
よう逃げたなと人は言ふなり
◇約束の金も貫はず支那の側
飯喰へないで水すゝるとは
◇旗の色はうつりにけりな徒に
我は強しと威張りある間に
◇恐しやコミンタインの赤故に
亂れそめにし支那ならなくに
◇今勝と言ふばかりにて長々と
アメリカの助待つてゐる哉
◇吹くからに化の皮目の脱がるれば
むべ法螺吹きも辛しと言はなん

◇よく見れば實に支那こそ可笑しけれ

蔣一人の罪にあらねど

◇アメリカもつれなく見えて仕方なく

イギリス許りを頼む外なし

◇白襪勇士の攻むる敵の陣

太刀はきらめき弾丸は散りける

◇叩かるゝ身をば思はず双向ひし

蔣の頭の可笑しくもあるかな

◇ちよこさいなか弱き聲をしほりつゝ

排日抗日尙吹ゆるとは

◇勝つ事の絶えてしなくばなかくに

救國公債賣られざらまし

◇戦へど勝つまじものを又負けて

泡吹くまでの憂きを見るかな

◇ありやまあ！支那の法螺吹き法螺吹けば

イギリス、ソ聯踊り合はする

◇嘆きつゝ他國に頼れるあの態は

いかに可笑しきものとかは知る

◇戦へば負くるものとは知りながら

尙向ひくるあさましさかな

◇契り置きしソ聯の助け命にて

あはれ今後の支那は行くめり

◇諸共に哀れと思へ蔣政府

デマより外にやる事も無し

◇今はたゞ命絶えなむとなりたるを

空威張りなどする輩かな

◇やれよとてソ聯は尻を押してゐる

困り顔なる汝が姿かな

◇夜もすがら無敵皇軍に攻められて

眠る閑さへこれなかりけり

◇従へばまだ此の上に絞られん

北になびくぞ今はよろしき

◇世の人よ今こそ見やれ思ひ知る

支那のお國も赤ぞなくなる

◇支那の海に漕出で、見れば久方の

雲井にまがふ聯合艦隊

◇虎の尾を踏める心地で山を越え

行方も知らぬ都落ちかな



互助會文藝原稿募集

和歌課題

選者 三輪則一氏

朝霜 (あさのしも)

柱 (はしら)

俳句課題

選者 琴月園雷鳴雲先生

桐葉 (きりば)

落鮎 (おちあじ)

栗飯 (くりい)

暮の秋 (くれのあき)

漁船沈む天に揺れ落す一葉哉 (虚子)

鮎落ちていよ／＼高き尾上かな (芭蕉)

山寺に千日講や栗の飯 (籠鳥)

戸を叩く狸と秋を惜みけり (撫村)

川柳課題

選者 琴月園雷鳴雲先生

病 (やまい) 火鉢 (ひばち)

一、締切 十二月十日 (厳守ノ事)
 一、一題五句以内トシテ添削出来ル様句間ヲ明ケラレタシ
 一、入選句ニハ選者ヨリ短冊ヲ贈呈致シマスカラ原稿ニハ住所氏名明記セラレタシ
 右ノ通り原稿募集致シマスカラ振ツテ御投稿ヲ乞フ

互助會報編輯部

編輯後記

戦時下に於ける石炭鑛業界は、増産に次ぐ増産を以てする状態にして、各炭坑ともハリ切つてゐるが、鐵鋼其他の資材が統制され、〇〇による労働力の不足で困つてゐるが、一方北九州の軍需工業や筑豊の石炭鑛業に従事する目的を以て密航する鮮人稼働者は官憲の手によつて次から次と追ひ返されてゐる現状だ。この問題について最近廣瀬縣警察部長と會見の際「鮮人も日本人と同じ日本人が朝鮮から内地に来るのに何故に之を措止するか? アメリカの日本移民排斥問題に憤慨して民族自決を叫ぶ日本人が鮮人の内地移住を阻止するのはケシカラン」と大氣焔を擧げた。善哉善哉!! 政府當局にこの名警察部長の叫びを聴かせたい。

互助會皇軍慰問團々長武内専務初め野上會長、山本、藤井、木曾、西本の諸氏は長途の旅の疲れを休む暇もなく、上海、青島方面の各工場、家庭用炭鐵籠で困つてゐる

るのを見て、直ちに上京して、商工省其他關係官廳を訪問して、筑豊、肥前の互助會所屬炭坑の産物炭十二万噸を年内に輸出の許可を得て、目下三井、三菱、山下の三社と協議中にて、近く第一船を積出す豫定があるが、本會が常に國策の線に沿つて、政府の意を体し之に協力して銃後の護を固め、日滿支一体の需給計畫を樹て、終始一貫業界のトップを切つて華々しく活躍し、鑛業報國に邁進しつゝ、あるので、各方面から大いに期待されてゐる。

今月號は、石炭液化の最高權威たる帝大名譽教授大島博士の「人造石油の話」石炭の販賣統制の元締たる古田昭和石炭社長「炭價と運賃」赤司庶務係長の「滿洲北支の皇軍慰問並に炭田視察の報告書」等々相當實のある記事を満載したが、山本重役が現地で撮影した寫眞が、同氏上京にて手に入らなかつたので次號に掲載の豫定である

互助會文藝欄も月を重ねる毎に新人の応募者が増しつゝ、あるのは感謝に堪へない。今後ともドシ／＼御投稿を乞ふ。(白刃生)

互助會報・第三卷・第十一號

購一冊 金參拾錢 郵税共
 半年分 金壹圓八拾錢同上
 一年分 金參圓六拾錢同上
 料金は前金の事

昭和十三年十一月十七日印刷納本
 昭和十三年十一月二十日發行

若松市本町二丁目

石炭鑛業互助會

發行人 風戸道康

編輯人 若松市堺町三丁目

印刷人 吉田万造

若松市堺町三丁目

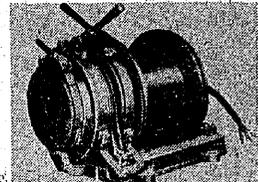
印刷所 吉田印刷所

電話 六五二番

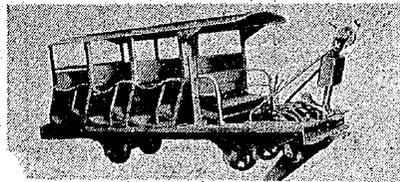
若松市本町二丁目

發行所 石炭鑛業互助會

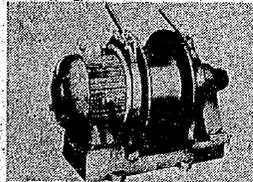
電話 長四七六
 七三六
 〇六一
 九一
 番番番



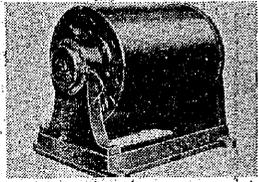
(九六型捲)



(人車急救車)



(小型萬能捲)



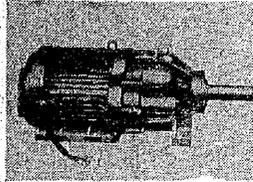
(九六型モーターブリー)

鑛山用・工場用・諸機械・精密測定機

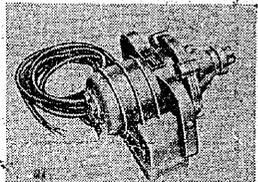
株式會社
谷 商店

福岡市上山町三ノ四番地
電話 美吉・一九〇六・一九七九

ベルト・コンベヤー設計製作・火工品 鑄鋼品 鑄鐵製品



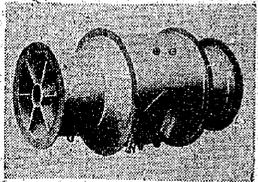
(コンベヤー電動機) GX-N-S型



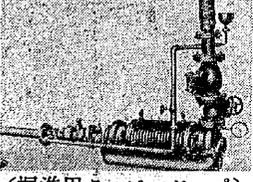
(ゴールドリル) 耐爆型 3/4馬力



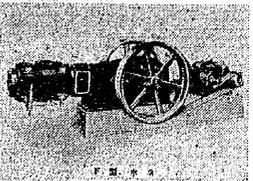
(電気開閉器)



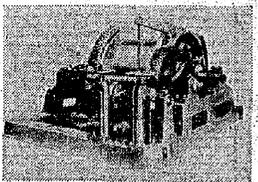
(局所扇風機)



(掘進用タービンポンプ)



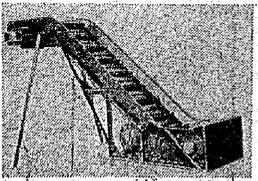
(空氣壓縮機)



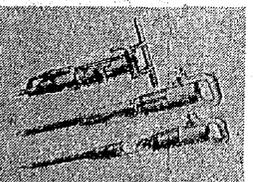
(大型電氣捲)

代理關係

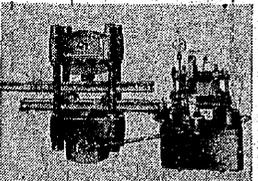
西 部 電 氣 工 業 所
獨 乙 フ ロ ッ ト マ ン 社 鑛 山 機 械
獨 乙 製 鋼 株 式 會 社
瓜 生 製 作 株 式 會 社
樺 本 チ ェ ー ン 製 作 所
日 本 S K F 興 業 株 式 會 社
大 隈 鐵 工 所 工 作 機 械
東 京 衛 機 製 造 所
菊 川 鐵 工 所 木 工 機 械
藤 村 機 械 製 造 株 式 會 社
草 場 計 器 製 作 所
日 本 機 械 製 鐵 株 式 會 社



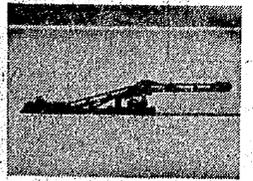
(チェーン・ローダー)



(ロック・ドリル) (ピック・ハンマー)



(水壓式レール棒曲機)



(ベルトローダー)

福 島 鐵 造 所 ト ン ン 鉋
江 崎 鐵 工 所 プ レ ス 類
石 原 兄 弟 商 會 プ レ ス 類
日 立 製 機 工 業 株 式 會 社
山 本 商 會 工 作 機 械
ベ ン ン 商 會 機 械 部
關 西 鐵 工 所
ア ル フ レ ッ ト ハ ー バ ー ト
植 田 鐵 工 所 齒 車
毛 利 製 作 所 齒 車

昭和十三年四月七日第三種印刷物便認可
昭和十三年十一月十七日印刷
昭和十三年十一月二十日發行

石炭鑛業互助會報

發行所 若松市本町二丁目

石炭鑛業互助會